

第3期ロジスティクス環境会議

第3回本会議

2010年3月10日(水)15:00～17:00

ホテルニューオータニ 地下1F 麗の間

次 第

1. 開 会

2. 経過報告

3. 議 事

- 1) 研究会、委員会等の活動報告について
 - (1) グリーン物流研究会
 - (2) 包装の適正化推進委員会
 - (3) グリーン物流推進のための取引条件検討委員会
 - (4) グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG
 - (5) 省エネ法実態調査について
- 2) 環境教育冊子について
- 3) 情報提供活動について
- 4) 第3期活動の総括について
- 5) 2009年度収支決算(案)について
- 6) 2010年度以降の活動について

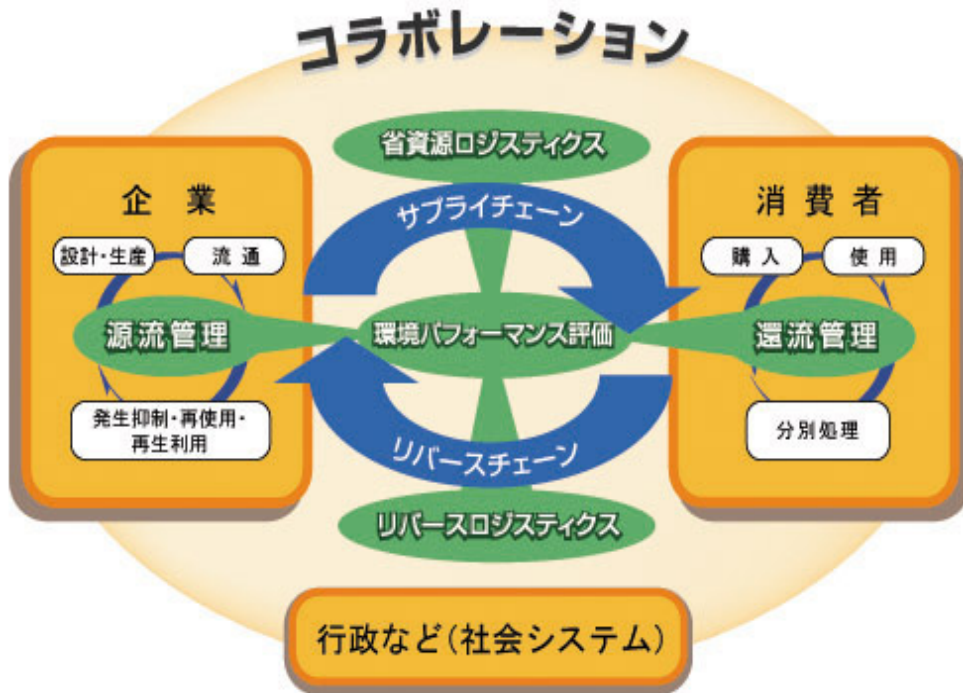
4. 閉 会

5. 懇親パーティー (17:00-18:30)

会場：ホテルニューオータニ 地下1F 翔の間

以 上

循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン



循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン図

調達、生産、流通、消費の諸活動とそれらの過程を経て発生する廃棄物の処理の行為は、環境汚染や環境破壊など、環境に対して様々な負荷を与えます。私達の世代は健全な地球環境と社会環境とを（人類生存の大前提である）最も重要な財産として、将来の世代に引き継ぐ責務を有しています。その責務を果たすべく、ロジスティクスにおいても、環境への調和、環境との共生、環境改善への積極的貢献、を最優先に考えねばなりません。

ロジスティクスには、再使用や循環などの視点に加え、素材の選択や廃棄物の処理のあり方まで視野を広げ、環境への負荷に適切に配慮しつつ、費用対効果を最適化することが必要です。

JILS は 21 世紀の循環型社会における、ロジスティクス活動のあるべき姿として

「環境と調和した循環型社会を支えるロジスティクス」を提唱します。

循環型の経済活動を、ロジスティクスを通じて実現したいという思いを込めて、

「循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン」を提案します。

（第 1 期 第 1 回本会議／2003 年 11 月 13 日）

「ロジスティクス環境宣言」

ロジスティクス環境会議およびそのメンバーは、循環型社会を実現するため、物流分野の環境負荷低減を経営の重要課題として認識し、以下の活動に積極的に取り組むことを宣言する。

1. 自らの環境負荷を低減する

自らの活動によって発生する環境負荷低減の目標を定め、目標達成に向けたマネジメントサイクルを推進する。

2. 環境負荷低減に取り組む企業を増やす

関係企業とパートナーシップを築き、共に環境負荷低減に向けた取り組みを推進する。

3. 情報を発信し、循環型社会の形成に寄与する

活動を通して明らかになった課題については、企業・行政・団体等の関係者へ情報発信を行い、循環型社会の形成に寄与する。

(第 1 期 第 4 回本会議/2006 年 3 月 15 日)

第3期ロジスティクス環境会議 組織体制 (2010年3月10日時点)

議長: 三村 明夫 (新日本製鐵(株) 代表取締役会長)
 副議長: 岡部 正彦 (日本通運(株) 取締役会長)
 副議長: 鈴木 敏文 (㈱イトーヨーカ堂 代表取締役会長 CEO)

**ロジスティクス
環境会議(本会議)**

**企画運営委員会
(16名)**

メンバー: 87社

委員長: 杉山 武彦
 (一橋大学 学長)
 副委員長: 増井 忠幸
 (東京都市大学 環境情報学部 学部長)
 副委員長: 高橋 信直
 (新日本製鐵(株) 営業総括部 部長)
 副委員長: 平野 由美子
 (日本通運(株) 環境・社会貢献部 部長)

**グリーン物流研究会
(82名)**

幹事: 下村 博史 (㈱日本総合研究所 総合研究部門 上席主任研究員)
 副幹事: 鈴木 邦成 (文化ファッション大学院大学 ファッションビジネス研究科 准教授)
 副幹事: 山田 英夫 (国分(株) 経営企画部 環境担当 課長)

**包装の適正化推進委員会
(25名)**

委員長: 増井 忠幸 (東京都市大学 環境情報学部 学部長)
 副委員長: 麦田 耕治 (日本通運(株) 環境・社会貢献部 専任部長)

**グリーン物流推進のための
取引条件検討委員会
(48名)**

委員長: 山本 明弘 (㈱日通総合研究所 物流技術環境部長 兼 環境グループ担当部長)
 副委員長: 大山 茂夫 (第一貨物(株) CS・環境対策 担当部長)
 副委員長: 梅津 芳文 (バンダイロジパル(株) 創務(総務)部 経営企画課 マネージャー)
 副委員長: 小島 賢次 (リコーロジスティクス(株) 営業本部 審議役)

**グリーンロジスティクス
チェックリスト調査WG**

幹事: 矢野 裕児 (流通経済大学 流通情報学部 教授)
 幹事: 菅田 勝 (㈱ロジスティクス革新パートナーズ 代表取締役)



第 3 期ロジスティクス環境会議 活動報告

1. 企画運営委員会 (計 5 回)

1) 第 1 回企画運営委員会

日時：2008 年 6 月 26 日(木) 15:00-17:05

会場：浜松町東京會館

議事：①環境会議のこれまでの取り組みと第 3 期の活動イメージについて
②組織体制について
③研究会、委員会、ワーキング等について
④グリーンロジスティクス推進週間/月間 (仮称) について
⑤2008 年度スケジュールについて
⑥第 1 回本会議について

2) 第 2 回企画運営委員会

日時：2008 年 11 月 20 日(木) 15:00-16:40

会場：芝パークホテル

議事：①研究会、委員会の 2008 年度活動内容について
②広報・普及活動について

3) 第 3 回企画運営委員会

日時：2009 年 2 月 26 日(木) 10:00-11:25

会場：(社) 日本ロジスティクスシステム協会

議事：①研究会、委員会の 2008 年度活動内容、及び 2009 年度活動計画 (案) について
②鉄道へのモーダルシフト促進に関する要望について
③情報提供活動について
④第 2 回本会議について

4) 第 4 回企画運営委員会

日時：2009 年 11 月 13 日(金) 15:00-16:50

会場：(社) 日本ロジスティクスシステム協会

議事：①研究会、委員会の活動内容について
②鉄道へのモーダルシフト促進に関する要望について
③情報提供活動について
④2010 年度以降の活動について

5) 第 5 回企画運営委員会

日時：2010 年 2 月 22 日(月) 15:00-16:50

会場：(社) 日本ロジスティクスシステム協会

議事：①研究会、委員会の活動内容について
②情報提供活動について
③第 3 期活動の総括について
④第 3 回本会議について
⑤2010 年度以降の活動について

2. グリーン物流研究会 (計 16 回)

1) 第 1 回グリーン物流研究会

日時：2008 年 5 月 21 日(水) 14:00-17:00

会場：中央大学駿河台記念館

- 2) 第2回グリーン物流研究会
日時：2008年6月18日(水) 14:00-17:00
会場：中央大学駿河台記念館
- 3) 第3回グリーン物流研究会
日時：2008年7月16日(水) 14:00-17:00
会場：中央大学駿河台記念館
- 4) 第4回グリーン物流研究会
日時：2008年9月24日(水) 14:00-17:00
会場：中央大学駿河台記念館
- 5) 第5回グリーン物流研究会
日時：2008年10月23日(木) 14:00-17:00
会場：中央大学駿河台記念館
- 6) 第6回グリーン物流研究会（見学会）
日時：2008年11月19日(水) 14:00-17:00
会場：日本アイ・ビー・エム(株)/日本ビジネスロジスティクス(株) 藤沢北事業所
- 7) 第7回グリーン物流研究会
日時：2008年12月3日(水) 14:00-17:00
会場：中央大学駿河台記念館
- 8) 第8回グリーン物流研究会
日時：2009年1月21日(水) 14:00-17:00
会場：中央大学駿河台記念館
- 9) 第9回グリーン物流研究会
日時：2009年5月26日(火) 14:00-17:00
会場：中央大学駿河台記念館
- 10) 第10回グリーン物流研究会
日時：2009年6月24日(水) 14:00-16:40
会場：中央大学駿河台記念館
- 11) 第11回グリーン物流研究会
日時：2009年8月7日(金) 13:30-16:40
会場：アイビーホール青学会館
- 12) 第12回グリーン物流研究会
日時：2009年9月16日(水) 14:00-17:00
会場：中央大学駿河台記念館
- 13) 第13回グリーン物流研究会
日時：2009年10月21日(木) 14:00-16:30
会場：笹川記念会館

- 14) 第14回グリーン物流研究会（見学会）
日時：2009年11月24日(火) 13:00-15:00
会場：積水ハウス(株) 関東工場
- 15) 第15回グリーン物流研究会
日時：2009年12月8日(水) 14:00-17:00
会場：中央大学駿河台記念館
- 16) 第16回グリーン物流研究会
日時：2010年1月20日(水) 14:00-17:00
会場：中央大学駿河台記念館

3. 包装の適正化推進委員会（計13回）

- 1) 第1回包装の適正化推進委員会
日時：2008年9月26日(金) 15:00-17:00
会場：(社) 日本ロジスティクスシステム協会
- 2) 第2回包装の適正化推進委員会
日時：2008年11月6日(木) 15:00-17:00
会場：(社) 日本ロジスティクスシステム協会
- 3) 第3回包装の適正化推進委員会
日時：2009年1月15日(木) 15:00-17:05
会場：中央大学駿河台記念館
- 4) 第4回包装の適正化推進委員会
日時：2009年2月19日(木) 10:00-12:15
会場：中央大学駿河台記念館
- 5) 第5回包装の適正化推進委員会
日時：2009年5月26日(木) 10:00-12:00
会場：中央大学駿河台記念館
- 6) 第6回包装の適正化推進委員会
日時：2009年6月19日(金) 15:00-17:00
会場：(社) 日本ロジスティクスシステム協会
- 7) 第7回包装の適正化推進委員会
日時：2009年7月17日(金) 10:00-12:00
会場：(社) 日本ロジスティクスシステム協会
- 8) 見学会
日時：2009年9月10日(木) 13:50-17:10
会場：レンゴー株式会社 新京都事業所
- 9) 第8回包装の適正化推進委員会
日時：2009年9月16日(水) 10:00-12:00
会場：中央大学駿河台記念館

- 10) 第9回包装の適正化推進委員会
日時：2009年10月23日(金) 15:00-17:05
会場：(社) 日本ロジスティクスシステム協会
- 11) 第10回包装の適正化推進委員会
日時：2009年11月27日(金) 13:00-14:35
会場：(社) 日本ロジスティクスシステム協会
- 12) 第11回包装の適正化推進委員会
日時：2009年12月25日(金) 10:00-12:05
会場：建築会館
- 13) 第12回包装の適正化推進委員会
日時：2010年2月19日(金) 15:00-17:00
会場：(社) 日本ロジスティクスシステム協会

4. グリーン物流推進のための取引条件検討委員会（計12回）

- 1) 第1回グリーン物流推進のための取引条件検討委員会
日時：2008年10月2日(木) 15:00-16:45
会場：中央大学駿河台記念館
- 2) 第2回グリーン物流推進のための取引条件検討委員会
日時：2008年11月14日(金) 15:00-17:00
会場：くるまプラザ
- 3) 第3回グリーン物流推進のための取引条件検討委員会
日時：2009年1月19日(月) 15:00-16:55
会場：中央大学駿河台記念館
- 4) 第4回グリーン物流推進のための取引条件検討委員会
日時：2009年2月20日(金) 15:00-16:50
会場：くるまプラザ
- 5) 第5回グリーン物流推進のための取引条件検討委員会
日時：2009年5月19日(火) 15:00-17:05
会場：くるまプラザ
- 6) 第6回グリーン物流推進のための取引条件検討委員会
日時：2009年6月25日(木) 15:00-17:00
会場：中央大学駿河台記念館
- 7) 第7回グリーン物流推進のための取引条件検討委員会
日時：2009年8月4日(火) 15:00-17:00
会場：くるまプラザ
- 8) 第8回グリーン物流推進のための取引条件検討委員会
日時：2009年9月30日(水) 15:00-17:00
会場：くるまプラザ

- 9) 第9回グリーン物流推進のための取引条件検討委員会
日時：2009年11月19日(木) 15:00-17:10
会場：くるまプラザ
- 10) 第10回グリーン物流推進のための取引条件検討委員会
日時：2009年12月21日(月) 15:00-16:55
会場：中央大学駿河台記念館
- 11) 第11回グリーン物流推進のための取引条件検討委員会
日時：2010年1月27日(水) 15:00-17:10
会場：日本教育会館
- 12) 第12回グリーン物流推進のための取引条件検討委員会
日時：2010年2月16日(火) 15:00-17:00
会場：中央大学駿河台記念館

5. グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG（計4回）

- 1) 第1回グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG
日時：2008年12月11日(木) 17:30-19:50
会場：(社) 日本ロジスティクスシステム協会
- 2) 第2回グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG
日時：2009年2月2日(金) 10:30-12:15
会場：(社) 日本ロジスティクスシステム協会
- 3) 第3回グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG
日時：2009年12月11日(木) 15:55-18:15
会場：(社) 日本ロジスティクスシステム協会
- 4) 第4回グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG
日時：2010年2月1日(金) 17:05-18:40
会場：(社) 日本ロジスティクスシステム協会

以 上

第3期ロジスティクス環境会議 研究会、委員会の活動方針、活動内容、今後の課題等について

研究会/委員会	活動方針	2008 年度活動内容	2009 年度活動内容/今後さらに検討を要する課題等
<p>グリーン物流研究会 (登録人数：82名)</p>	<p>ロジスティクス分野における環境負荷低減活動を推進するため、グリーン物流に関する各種施策の実施事例等の情報交換等を通じて、実践的な改善施策を研究する。</p>	<p>1. 研究会（講演会形式） 7回開催</p> <p>2. 施設見学会 1回開催</p> <p>3. その他</p> <p>1) メンバー記入表の作成及び配布（新規） 研究会への参加目的、グリーン物流に関する課題等を各メンバーにご記載いただくとともに、その内容を全メンバーに配布することで、メンバー相互の人的交流の一助としていただいた。</p> <p>2) アンケートの実施 2008年度の活動の評価と反省のために実施した「2008年度活動アンケート」含めて、計8回実施</p> <p>3) ブログによる情報発信</p> <p><アウトプット> 『2008年度 グリーン物流研究会 活動報告書』</p>	<p>1. 研究会（講演会形式） 7回</p> <p>1) 第9回研究会 テーマ「エコ包装」、「省エネ法（工場・事業場）」（44名）</p> <p>2) 第10回研究会 テーマ「カーボンフットプリント」（50名）</p> <p>3) 第11回研究会 テーマ「循環型社会構築に向けて」（66名） *公開制研究会としてメンバー外にも公開して実施</p> <p>4) 第12回研究会 テーマ「共同回収」、「サプライチェーン省資源化に向けて」（43名）</p> <p>5) 第13回研究会 テーマ「省エネ法（輸送に係る措置）」（42名）</p> <p>6) 第15回研究会 テーマ「G物流P推進事業」、「循環型社会構築に向けて」（54名）</p> <p>7) 第16回研究会 テーマ「東京都買主施策」、「グリーン物流の今後」（43名）</p> <p>2. 施設見学会 1回</p> <p>1) 第14回研究会 積水ハウス株式会社 関東工場 資源循環センター（26名）</p> <p>3. その他</p> <p>1) 講演概要のメール送付（新規）</p> <p>2) アンケートの実施（「2009年度活動アンケート」を含め、計8回実施）</p> <p><アウトプット> 『2009年度 グリーン物流研究会 活動報告書』 *各会合の講演概要、幹事所感、配布資料を取りまとめ、事例研究の参考としていただく</p> <p>【今後の課題等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、幅広いテーマに関する情報提供 ・人的ネットワーク形成に向けた運営上の工夫 ・グリーン物流のさらなる推進に向けてCGLメンバー以外への情報提供
<p>包装の適正化推進委員会 (登録人数：25名)</p>	<p>物流の主要な1機能である「包装」の適正化による環境負荷低減に向け、荷主企業と物流企业等の課題を整理した上で、解決策を検討する。</p> <p>さらに必要に応じて企業、行政、団体等の関係者への提言を行う。</p>	<p>1. 活動内容の検討</p> <p>1) 活動内容アンケート、及びアンケート結果を基に活動内容を検討 ⇒「包装に関わる環境パフォーマンスの算定」に関する検討を行う。 その中でも、特に委員の関心の高い「CO₂への換算」に向けた検討を行う。</p> <p>2. 包装に関わる環境パフォーマンスの算定についての検討</p> <p>1) 「包装に関わる環境パフォーマンスの算定に関する調査」の実施 各社における包装に関わる環境パフォーマンス算出状況等について確認 ⇒パフォーマンス算定に必要な基データもあまり捉えられていない実態</p> <p>2) 「サプライチェーンにおける包装材の流れのイメージ図（案）」の策定 ⇒様々な主体において“読み替え”ができるようなコメントの追記等の必要性</p> <p>3) CO₂換算に向けた検討</p> <p>(1) CO₂排出原単位の整理 だれでも入手可能な原単位の情報収集</p> <p>(2) 包装材の投入量の標準的算定方法の検討</p>	<p>1. 包装に関わる環境パフォーマンスの算定についての検討</p> <p>1) 包装材のフロー基本モジュールの策定 「包装材のフロー 基本モジュール」、「基本モジュールの組み合わせ例」を策定</p> <p>2) 包装材の投入量の標準的算定方法の検討 ワンウェイ、リターナブル各々について、総量、原単位等として捉えるべき指標を整理</p> <p>3) 包装材の排出量の標準的算定方法の検討 EPR（拡大生産者責任）の観点より、資源の視点から指標を整理</p> <p>4) 適正化の取り組み 2) 3) の指標とその改善につながるための適正化の取り組みを整理</p> <p>5) その他 レンゴー株式会社 新京都事業所 見学会</p> <p><アウトプット> 『グリーン物流推進のための輸送包装適正化の手引き-環境パフォーマンス算定の考え方-』 *輸送包装に係る環境パフォーマンス算定並びに適正化の取り組みを推進していただく。</p> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本手引きのブラッシュアップと普及 ・CO₂排出原単位の整備 ・サプライチェーン全体での適正化取り組みの促進

研究会/委員会	活動方針	2008 年度活動内容	2009 年度活動内容/今後さらに検討を要する課題等
グリーン物流 推進のための 取引条件検討 委員会 (登録人数： 48名)	環境負荷と経済効率を考慮した物流に係る取引条件のあり方について、発荷主、着荷主、物流事業者間で課題を共有し、解決の方向性、方策を検討する。 さらに必要に応じて企業、行政、団体等の関係者への提言を行う。	1. 活動内容の検討 1) 「活動内容アンケート」を実施 2) 物流に係る取引条件を検討するねらい(含む過去の検討成果)の確認 3) 上記アンケート結果を基に活動内容を検討 ⇒「時間指定」をテーマに検討を行う。 2. 「時間指定」が環境負荷に与える影響等についての検討 1) 「時間指定に関するアンケート調査の実施」 ①着荷主、②発荷主、③物流事業者それぞれの立場における「時間指定」の捉え方等について確認 2) 主な検討対象の審議 当委員会での主な検討対象を決定するために、業種等により「時間指定の分類・整理表」を策定するとともに、同表を参考として、検討対象を審議 3) 時間指定の見直しによるCO ₂ 改善効果の算出等に向けた調査項目の検討 ⇒CO ₂ 改善効果の算出については、一部委員にデータ等の御協力いただく形での調査実施を決定 ⇒上記とは別に、委員各社において時間指定の見直しが実施できた要因等に関する調査実施を決定	1. 「時間指定」が環境負荷に与える影響等についての検討 1) 時間指定の見直しによるCO ₂ 改善効果の算出等について 「グリーン物流パートナーシップ ソフト支援事業 中継物流の共同化」の報告 2) 時間指定の見直しによるCO ₂ 削減に係るアンケート調査(1次調査、追加調査) ①事例内容、②取組による時間指定等の差異、③CO ₂ 等の効果、④実施にあたり調整した項目、⑤取組がすすんだ要因、⑥実施後に生じた課題等について収集 ⇒事例編として取りまとめ 3) 取り組みの手引きの取りまとめ 事例編の内容から、物流部門から営業部門、さらには着荷主に対する対話・調整等を進めるために必要となる項目をフローとして取りまとめた。 <アウトプット例> 『取引条件の見直しによるグリーン物流推進の手引き—時間指定を中心として—』 *本書を参照し、各社において時間指定設定の合理性を考えるきっかけとしていただく。 <hr/> 【今後の課題】 ・「待ち時間」の共通指標化に向けた検討 ・本手引きの普及

ロジスティクス環境会議 第3回本会議 グリーン物流研究会

株式会社日本総合研究所
総合研究部門
上席主任研究員(グリーン物流研究会 幹事)
下村 博史 氏

第3期ロジスティクス環境会議 組織体制

議長: 三村 明夫(新日本製鐵㈱ 代表取締役会長)
副議長: 岡部 正彦(日本通運㈱ 取締役会長)
副議長: 鈴木 敏文(㈱イトーヨーカ堂 代表取締役会長 CEO)

**ロジスティクス
環境会議(本会議)**

メンバー: 87社

**企画運営委員会
(16名)**

委員長: 杉山 武彦
(一橋大学 学長)
副委員長: 増井 忠幸
(東京都立大学 環境情報学部 学部長)
副委員長: 高橋 信直
(新日本製鐵㈱ 営業総括部 部長)
副委員長: 平野 由美子
(日本通運㈱ 環境・社会貢献部 部長)

**グリーン物流研究会
(82名)**

幹事: 下村 博史(㈱日本総合研究所 総合研究部門 上席主任研究員)
副幹事: 鈴木 邦成(文化ファッション大学院大学 ファッションビジネス研究科 准教授)
副幹事: 山田 英夫(国分㈱ 経営企画部 環境担当 課長)

**包装の適正化推進委員会
(25名)**

委員長: 増井 忠幸(東京都立大学 環境情報学部 学部長)
副委員長: 栗田 耕治(日本通運㈱ 環境・社会貢献部 専任部長)

**グリーン物流推進のための
取引条件検討委員会
(48名)**

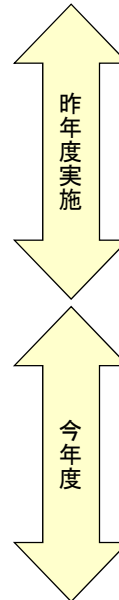
委員長: 山本 明弘(㈱日通総合研究所 物流技術環境部長 兼 環境グループ担当部長)
副委員長: 大山 茂夫(第一貨物㈱ CS・環境対策 担当部長)
副委員長: 梅津 秀文(バンダイデジタル㈱ 創務(総務)部 経営企画課 マネージャー)
副委員長: 小島 賢次(リコーロジスティクス㈱ 営業本部 審議役)

**グリーンロジスティクス
チェックリスト調査WG**

幹事: 矢野 裕児(流通経済大学 流通情報学部 教授)
幹事: 菅田 勝(㈱ロジスティクス革新パートナーズ 代表取締役)

この二年間の研究会テーマ

- 第1回 物流に求められる環境対応
- 第2回 エコドライブ活動、シートパレット、輸送品質とCO2削減
- 第3回 食品リサイクル、配車計画
- 第4回 アメリカのグリーン物流、グローバルSCM、CSRと物流
- 第5回 排出量取引、エコドライブ、CO2見える化
- 第6回 サーバーの3R(現場見学会)
- 第7回 都市内グリーン物流、求貨求車
- 第8回 エコビジネス、物流センターの環境負荷軽減、包装材の最適設計
- 第9回 エコ包装、省エネ法(工場・事業場)
- 第10回 カーボンフットプリント
- 第11回 循環型社会構築に向けて
- 第12回 共同回収、サプライチェーン省資源化
- 第13回 省エネ法(輸送に係る措置)
- 第14回 ハウスメーカーの資源循環センター(現場見学会)
- 第15回 グリーン物流パートナーシップ推進事業、循環型社会構築に向けて
- 第16回 都市におけるグリーン物流施策、バイオ燃料



3

この二年間お話を伺った皆さん

- 第1回 日経BP
- 第2回 アスア、新日石プラスト、日本ビジネスロジスティクス
- 第3回 国土交通省、ユニー、光英システム
- 第4回 拓殖大学、住金物産、NECロジスティクス
- 第5回 文化ファッション大学院大学、明治乳業、SBSホールディングス
- 第6回 日本アイ・ビー・エム/日本ビジネスロジスティクス・藤沢事業所
- 第7回 東京都/武蔵野市、トランコム、環境省
- 第8回 山九、竹中工務店、東京大学、オリンパス
- 第9回 神戸大学/NPO法人ごみじゃぱん、資源エネルギー庁
- 第10回 経済産業省、サッポロビール
- 第11回 慶應義塾大学、帝人ファイバー、横手運送
- 第12回 キヤノン/セイコーエプソン、MFCA研究所、倉敷化工
- 第13回 JILS事務局、明治乳業、第一貨物、國分
- 第14回 積水ハウス・資源循環センター
- 第15回 豊田通商、大王製紙/川崎紙運輸/いわき大王紙運輸、大口酒造
- 第16回 東京都、ユーズ、日本総合研究所

4

インクカートリッジ里帰りプロジェクト(第12回) 報告書P133~156

<概要>

・インクジェットプリンターのメーカー6社で実施しているプロジェクト

・特徴としては

- ①回収拠点として郵便局を活用
- ②プロジェクト内における情報公開の徹底
- ③共同回収したインクカートリッジの仕分け拠点として、セイコーエプソンの障害特例子会社であるエプソンミズベを利用
- ④様々な媒体を通じたプロモーション活動

・09年度は08年度の数倍(年間200万個)程度の回収実績(販売実績の1%前後)が見込まれる。2010年度は500万個(2.5%)の回収を目指したい。

<参加者アンケートより>

・競合メーカーの垣根を越えたすばらしいプロジェクトと思った。

・1ユーザーとして大変興味深く拝聴した。「郵便局を利用する」ことが今までの量販店ポストと違った視点での切り口で、「なるほど」と感じた。

5

積水ハウス:資源循環センター(第14回) 報告書P133~156

<概要>

・住宅の新築およびリフォームの施工現場から、建築材料の端材や包装材を分別し、リサイクル業者に引き渡すまでの工程を担っている。

・マテリアル、サーマル含めて100%のリサイクル率

・施工現場では27種類の材料に分別。このセンターでさらにそれらを80種類に分別

・入荷時に重量を計測し、材料別に仕分け。さらにマテリアルリサイクルできるもの、サーマルリサイクルできるものというように分けていく。

・作業は材料ごとにエリアを分けて、それぞれ小さなセル単位で行う。

・硬質プラスチックは種類が多く、見分けも困難。熟練作業員が手作業で行うことで質を確保

<参加者アンケートより>

・廃棄分別・処理など、教育の部分も工程に含める考え方は実効性があり参考になった。

・他業種の現場を見る機会は無かったので、勉強になった。廃棄物はどの業界にも関わることなので、興味を持って見学できた。

6

<概要>

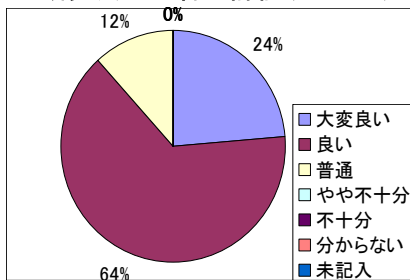
- ・東京の廃食油の量は約4万トン。業務用は8～9割回収・再利用されているが、家庭用は全く行われていない。
- ・家庭や飲食店から出る廃油を回収し、染谷商店のリサイクル工場でVDFなどとして皆様に利用いただく、油の循環を進めている。
- ・2017年までに東京都内から排出される廃食油を1滴残らず回収し、資源にすることをミッションとした「TOKYO油田2017」プロジェクトを2007年に発足した。
- ・墨田区では、商店、商店街、保育園などに回収ステーションを設置。それらの施設のエコ活動のサポート等で地域の環を構築。
- ・「モノ」には必ず背景に「物語」が存在する。単にVDFの製造、販売だけでなく、環境問題への解決といった「物語」を提供したい。

<参加者アンケートより>

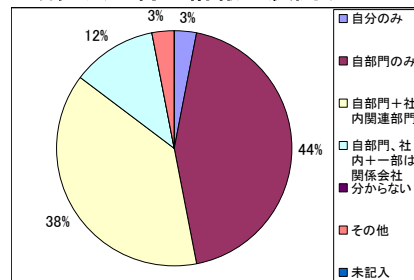
- ・夢を持ちながら循環型社会を形成していく姿に感動した。
- ・地域や人のつながりを大切にされていることが印象的だった。

アンケートの回答状況

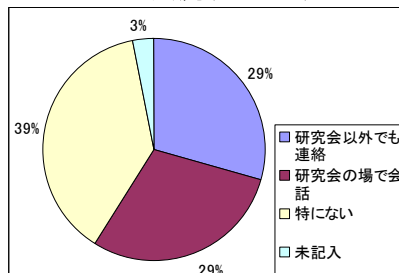
研究会の内容の評価(N=34)



研究会で得た情報の展開(N=34)



人的交流(N=34)



研究会活動を返って

■ 研究会の成果

- 時代の流れを追い、各自の仕事を考える上で、良質な素材が提供できたのではないか。

■ 会員相互のネットワーク

- 会を重ねるごとに、会員同士の絆が少しずつ自生。
- 公私に亘り、これからも相談できる仲間ができた。

■ 今後への期待

- グリーン物流はこれからますます進化を遂げるだろう。
- JILSの活動として、今後もこうした学習の場、情報収集の場を、会員企業と共に創ることが大切。来期以降の企画に期待。

包装の適正化推進委員会

ロジスティクス環境会議
包装の適正化推進委員会
委員長 増井 忠幸



0. 当委員会の役割と運営体制

【役割】

物流の主要な一機能である「包装」の適正化による環境負荷低減に向け、荷主企業と物流企業等の課題を整理した上で、解決策を検討する。

さらに必要に応じて企業、行政、関係団体等の関係者に提言を行う

【運営体制】

□委員長

増井 忠幸（東京都市大学 環境情報学部 学部長）

□副委員長

麦田 耕治（日本通運(株) 環境・社会貢献部 専任部長）

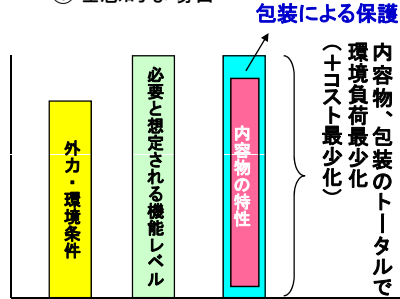
□メンバー(計23人)

【成果物】

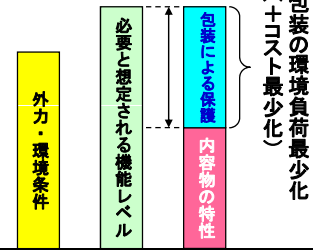
「グリーン物流推進のための輸送包装適正化の手引き
－環境パフォーマンス算定の考え方－」

1-1. 包装の適正化とは

①理想的な場合



②現実的には



・内容物の企画・設計時点で、包装材料も含めた形で必要な機能レベルを確保しながら、内容物、包装材料トータルとして環境負荷の最少化を目指すこと

(=当委員会における「適正化」の定義)

・必要な機能レベルと内容物の差を埋める形で包装設計が行われている

・物流事業者等においては、内容物の設計等まで関与することは困難

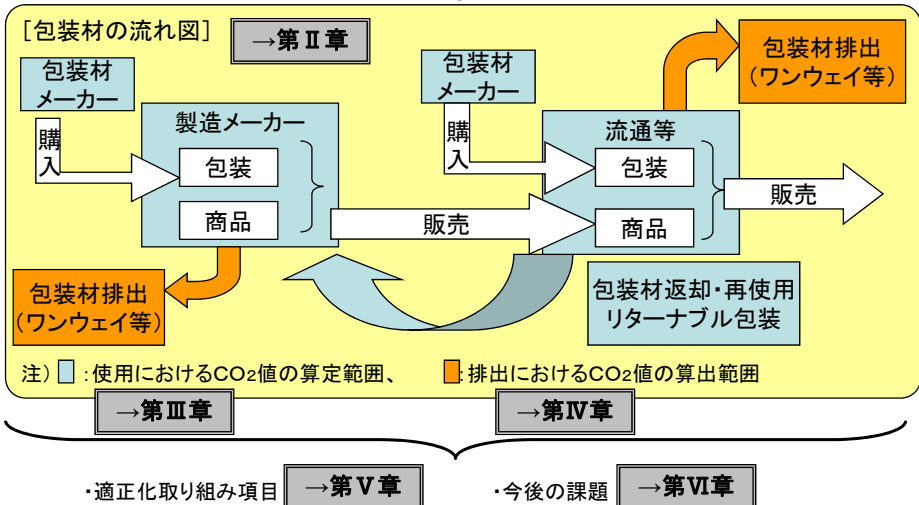


当委員会では②を前提に、検討を進めた



1-2. 当委員会の目標と検討内容の全体像

実際に包装を行う企業などにおいて
「包装単位ごとの環境負荷を減らす適正化の取組みを推進する」
そのための指標として包装材料に係るCO₂値を算出する



2-1. 包装材のフロー

包装材の特徴

- ・サプライチェーンの複数の主体にかかわる
(複数の主体の手に渡る)



適正化を考える際には、

- ・ある主体が使用した包装材がどの経路でどの主体までたどり着くものか
 - ・現在手元にある包装材がどの主体から来たものか
- などを整理することが必要



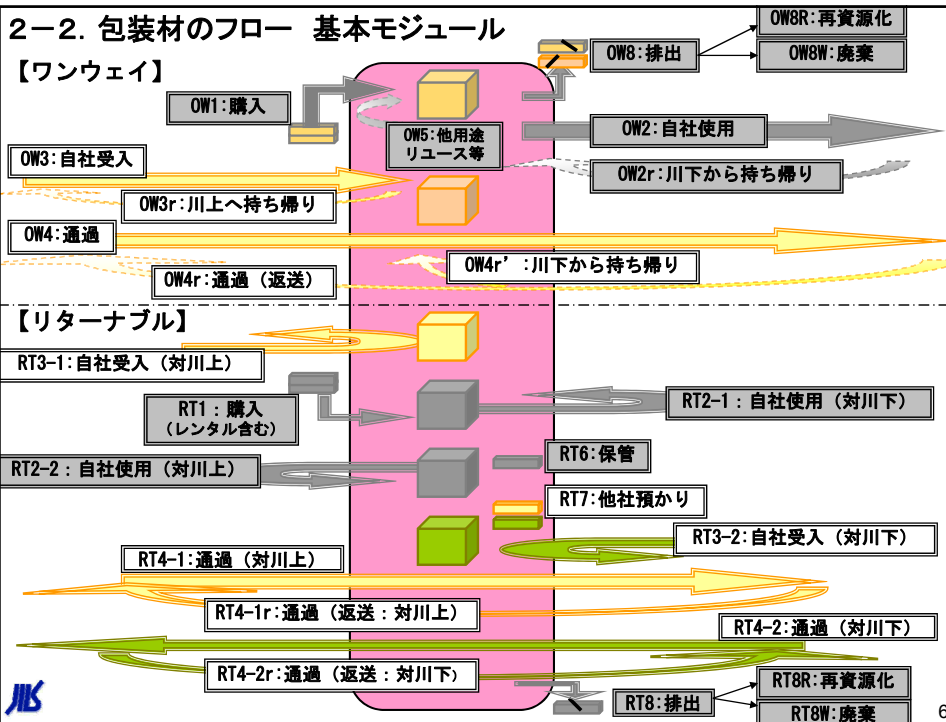
「包装材のフロー」の作成



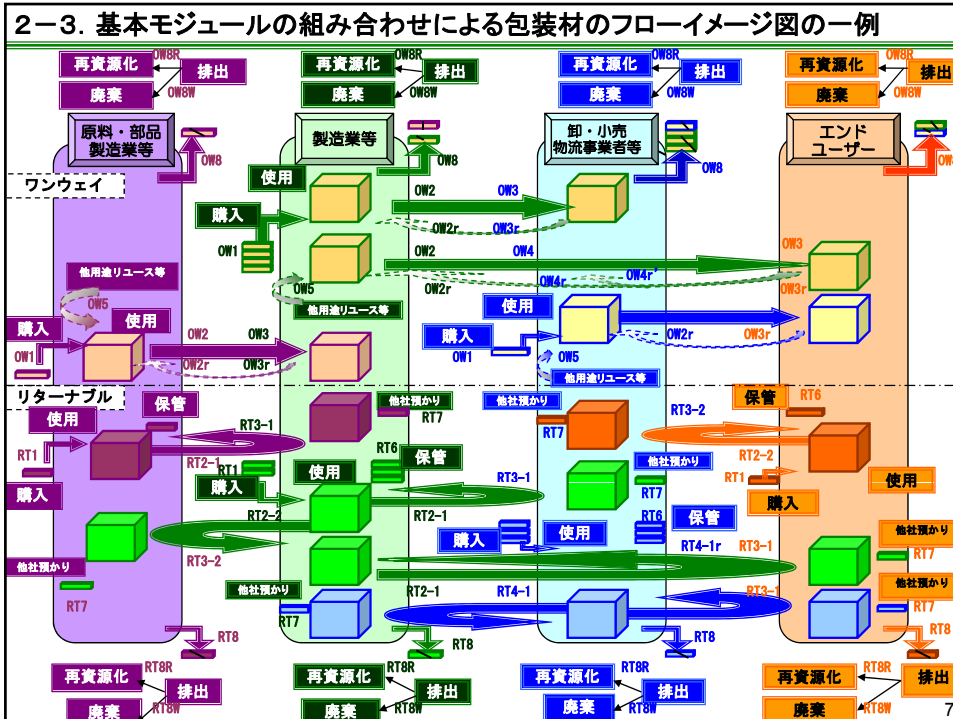
5

2-2. 包装材のフロー 基本モジュール

【ワンウェイ】



6



3-1. 投入量として捉える指標

ロジスティクス環境会議
 Conference on Green Logistics in Japan

	ワンウェイ	リターナブル	
		【目的1】 環境負荷の実績値の 算出・評価	【目的2】 環境負荷の予測値の 算出・評価
総量の 指標	「使用量」 ●「購入量」を「使用量」とみなす ●「出荷量」、「生産量」から 「使用量」を算出する	「購入量」 ●購入時点で一括評価	「購入量」 ●想定した使用期間、 もしくは使用回数を基に 配賦する。
原単位 (総量 の効率性 を図る 指標)	各社において、実態を踏まえ、 効率性を的確に評価できる指標 を分母の値として設定 例:「製品1台あたり」 「1出荷量あたり」 「1出荷件数あたり」	各社において、実態を踏まえ、 効率性を的確に評価できる 指標を分母の値として設定 例:「製品1台あたり」 「1出荷量あたり」 「1出荷件数あたり」	/
補助 指標		◎効率性の指標として 「リターナブル1回(1箱)あたり平均出荷量」 ◎循環利用の指標として 「年間回転数」、「平均使用回数」	

<算出単位について>
 CO₂排出量への換算だけを考えると素材別重量の把握が必要であるが、把握が困難であることから、各社の実情に合わせて金額ベース、数量ベース、総重量ベース等、使い分けや 複数用いることが必要

3-2. CO₂排出原単位について

$$\text{CO}_2\text{排出量} = \text{素材別重量} \times \text{CO}_2\text{排出原単位}$$

【実際の算定にあたっての課題】
包装材のユーザーが自ら原単位を
求めることは困難

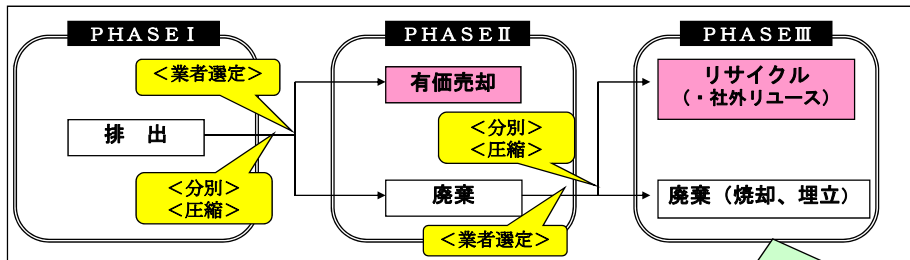
「購入、使用という行為によって、
包装材の生産に係わるCO₂を発生させた/資源を消費した」として、
各包装材の生産等に係る原単位
を用いることが望ましい

- ①包装材メーカーからの情報提供
- ②包装材メーカーのカーボンフットプリントによる表示
- ③行政や業界団体での原単位の策定・公表



4-1. 排出のフローとアクション/CO₂の視点(総量)

図表 排出のフローとアクション



【CO₂排出量算定するにあたっての課題】

- ・リサイクル方法別の原単位が策定されていない。
- ・複数排出事業者から集めた廃棄物をまとめて処理している
→按分等の必要
- ・算定範囲は？(リサイクルは廃棄物処理の1手段？リサイクル商品を作るための資源、原材料調達？)

・リサイクル、焼却どちらでも、それぞれを通じてCO₂発生。
・リサイクルか焼却かを決定できる主体は排出事業者であることから、**EPR(拡大生産者責任)の原則を適用することが望まれる。**

CO₂排出総量ではなく、リサイクルによるCO₂排出削減効果の指標の方が有用ではないか？

ロジスティクス環境会議
Conference on Green Logistics in Japan

4-2. CO₂の視点(CO₂排出削減効果)

図表 R(リサイクル)により元の製品と同じモノになる場合

図表 R(リサイクル)により別の製品になる場合

・P+D と Rとの比較により削減効果を出す

・P₂+D と Rとの比較により削減効果を出す

・焼却(D)、リサイクル(R)に加えて、バージン製品(P、P₂)にかかるCO₂排出量の算定が必要となるが、排出事業者自身で算出することは困難

①リサイクル業者や廃棄物処理業者からの情報提供
②行政や業界団体において標準的な削減係数の策定及び公表

* 東京都 統合的な資源循環戦略の構築
<http://www2.kankyo.metro.tokyo.jp/haitai/singikai/3R-senryaku-top.htm>

ロジスティクス環境会議
Conference on Green Logistics in Japan

4-3. 資源使用の視点

【総量の指標】

- ① 排出量
- ② 有価売却量
- ③ 廃棄物量
- ④ リサイクル量
- ⑤ 廃棄(焼却、埋立)量

【効率化の指標】

<原則>

$$\text{再資源化率} = \frac{\text{有価売却量} + \text{リサイクル量}}{\text{排出量}}$$

<代替>

$$\text{再資源化率} = \frac{\text{リサイクル量}}{\text{廃棄物量}}$$

<算出単位について>

* 素材別重量ベースが望ましいが、プラスチック系、金属系、木材系、紙系といった大きな分類での把握や総重量ベースでの把握など、可能な方法で実施するものとする。

5-1. 適正化の取り組み(その1) ワンウェイ			ロジスティクス環境会議 Conference on Green Logistics in Japan
	指標	フロー番号	取り組み項目例
投入量 (スライド8)	使用量	OW2	①物流実態に合わせた包装評価基準見直しによる使用量削減 (例、落下基準の低減による縮小化) ②物流・ロジスティクス改善による包装簡素化 (例、中継輸送から直送化に切り替えることで中間での負荷低減を図ることによる設計基準の見直し) ③集合化による個別包装の簡素化 (例 J Rのコンテナ単位への集合化) ④製品との連携による包装簡素化 (例 製品強度向上、製品(付属品)の一部活用、形状変更、収納方法の工夫) ⑤作業ロス、納品ロスの削減 (例 物流現場での荷扱い指導) ⑥再生可能素材への切替 ⑦廃棄時に環境負荷の低い素材への切替 ⑧リターナブル可能材料への切替 ⑨リターナブルシステムの構築 ⑩レンタル品の活用 (例 パレット、プラスチック容器等)
	購入量	OW1	①適切な量の購入、在庫管理 ②共通化 ③他用途リユース等OW5の増加 ④OW2r (自社使用の持ち帰り)、OW4r' (通過の持ち帰り) の選定、再使用化 (リユース容易化) (例 簡易剥離物流ラベルの採用等)
排出量 (スライド12)	排出量	OW8	①作業ロス、納品ロスの削減 (例 作業管理、荷扱い指導) ②OW2r (自社使用の持ち帰り)、OW4r' (通過の持ち帰り) の選定、再使用化 (リユース容易化) ③OW3 (自社受入) の削減に向けた川上との連携、提案 (例 リターナブル包装への切替) ④OW2r (自社使用の持ち帰り) の削減に向けた川下との連携、提案 (例 こすれ等についての返品基準の策定) ⑤OW4r' (通過の持ち帰り) の削減に向けた川上、川下との連携、提案
	再資源化量	OW8R	①分別の徹底 ②圧縮 ③リサイクル業者の情報収集 ④優良なりサイクル業者の選定 ⑤有価売却等が可能な場合、積極的な持ち帰り

13

5-2. 適正化の取り組み(その2) リターナブル			ロジスティクス環境会議 Conference on Green Logistics in Japan
	指標	フロー番号	取り組み項目例
投入量 (スライド8)	購入量	RT1	①適切な量の購入 ②グループ会社、他社同系列製品との共有化 (例 ICスティック・トレイ) ③サイズの統一化、モジュール化 (例 組み合わせ収納) ④レンタル品の活用 (例 パレット、プラスチック容器等) ⑤より耐久性が高い再生可能材料への切替 (例 PSからPE、木材から金属への切替) ⑥製品との連携による包装簡素化 (例 製品強度向上、製品の一部活用、形状変更、小型化)
使用効率 (スライド8)	年間回転数 (平均使用回数)	RT 2-1 RT2-2 RT6	①在庫管理、運用管理等の管理方法の確立 (例 バーコード、QRコード、RFIDなどによる所在管理等) ②荷役治具兼用化での取り扱い容易性による回数増加 (例 カゴ台車) ③回収システムの構築 ④使用、回収時の川上、川下への協力要請 ⑤レンタル品の活用 (例 パレット、プラスチック容器等)
	1回(箱)あたり平均出荷量		①出荷量に見合った包装材のサイズの設定 ②輸送単位に見合った販売の実施
排出量 (スライド1)	排出量	RT8	①作業ロス、納品ロスの削減 (例 作業管理、荷扱い指導)
	再資源化量	RT8R	①分別の徹底 ②圧縮 ③リサイクル業者の情報収集 ④優良なりサイクル業者の選定 ⑤単一素材選定 ⑥複数素材使用の場合は、使用者自身が分解できるような構造

14

- 本ガイドのブラッシュアップと普及
- CO₂排出原単位の整備
- サプライチェーン全体での適正化取り組みの促進
- より高度な全体最適化に向けた調査・研究

グリーン物流推進のための 取引条件検討委員会

ロジスティクス環境会議

グリーン物流推進のための
取引条件検討委員会

委員長 山本 明弘



0. 当委員会の役割と運営体制

【役割】

環境負荷を考慮した物流に係る取引条件のあり方について、発荷主、着荷主、物流事業者間で課題を共有し、解決の方向性、方策を検討する。さらに必要に応じて企業、行政、関係団体等の関係者に提言を行う。

【運営体制】

□委員長

山本 明弘 (株)日通総合研究所 物流技術環境部長 兼 環境グループ担当部長)

□副委員長

大山 茂夫 (第一貨物(株) CS・環境対策担当 部長)

梅津 芳文 (株)バンダイロジパル 創務(総務)部 経営企画課 マネージャー)

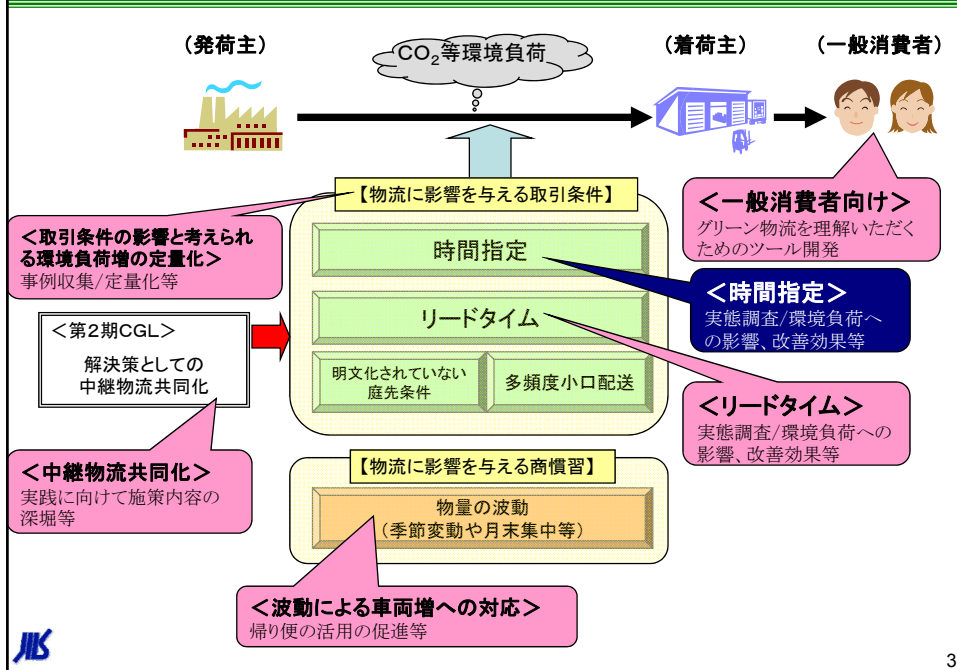
小島 賢次 (リコーロジスティクス(株) 営業本部 審議役)

□メンバー(計44人)

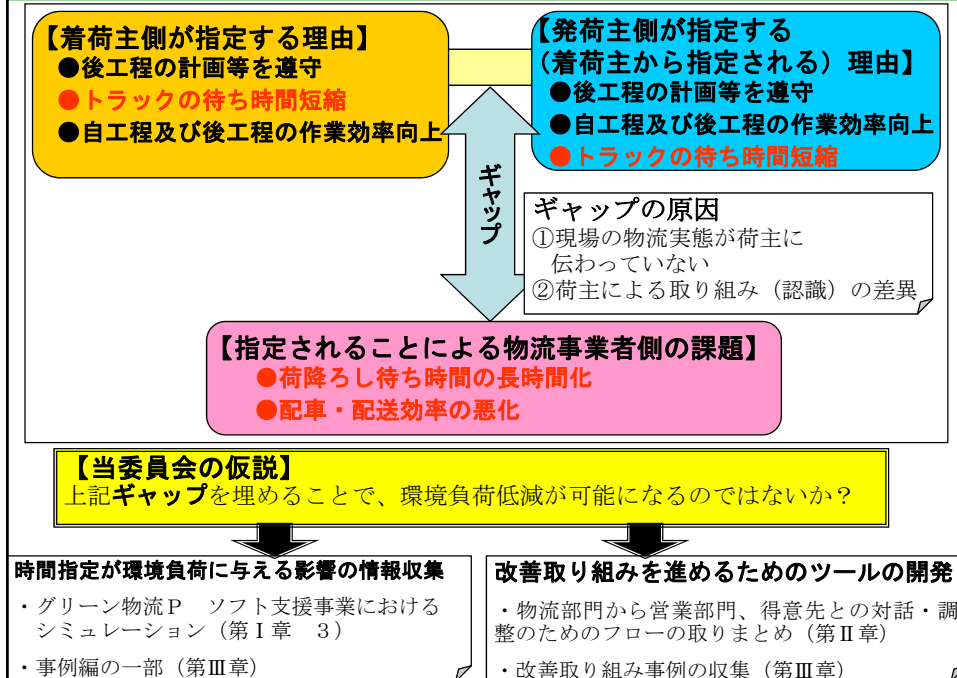
【成果物】

「取引条件の見直しによるグリーン物流推進の手引き
ー時間指定を中心としてー」

1-1. 当委員会の活動テーマ検討



1-2. 時間指定に係る荷主と物流事業者のギャップと当委員会の検討の流れ



ロジスティクス環境会議
Conference on Green Logistics in Japan

1-3. 改善取り組みを進めるためのツールの開発

時間指定及びそれに付随する事項によるCO₂排出量増要因

要因Ⅰ 指定された時間に届けても荷降ろし待ち時間が発生
→時間指定を遵守するために、通常よりも多いトラック台数を配車させることにより、総走行距離増によるCO₂排出量増。

要因Ⅱ 時間指定によって輸送距離が最短となるルートが組めない
→総走行距離増によるCO₂排出量増

↓

①上記要因に対する、改善取り組みをまとめた事例編を作成
(手引き 第Ⅲ章:事例編)

②事例編の内容から、取り組みを進めるためのフローを取りまとめ
(手引き 第Ⅱ章:改善アプローチ編)

5

ロジスティクス環境会議
Conference on Green Logistics in Japan

2-1. 事例編の調査項目

調査項目
事例タイトル (荷主/物流事業者の別)
1-1) 改善事例の内容について
1-2) 取り組みによる差異 【納品時刻及び荷降ろし待ち時間について】
1-3) 取り組みによる差異【納品時刻及び荷降ろし待ち時間以外について】 トラック台数、輸送距離、積載率、コスト、CO ₂
2) 気づき
3-1) 働きかけ・要請 <ul style="list-style-type: none"> i) 調整を進めた主担当部門 ii) 調整する相手先となった部門等 iii) 調整・変更を求めた主な項目 iv) 改善に協力した最も大きなポイント
3-2) 取組が進んだ要因について (他部門、あるいは取引先等の調整が必要だった場合、調整・説得できたポイント等)
3-3) 気づきから取組み実施までの期間
4) 取り組み実施後に生じた課題等について
5) 本取り組みを他のルート/他の取引先に拡大させる際の課題等について

6

2-2. 事例編の結果概要

図表1 回答概要

分類	事例数
要因Ⅰ 荷降ろし待ち時間削減	5
要因Ⅱ 輸送距離削減	4
要因Ⅲ その他	6
計	15

図表2 発意者・提案者の内訳

分類	回答数
現場部門	11
ドライバー	3
他社	2
販売管理部門・商品管理部門	2

* 複数回答

図表3 待ち時間削減効果について

分類	全事例（9事例）*1	要因Ⅰ（5事例）のみ
取組前平均待ち時間	137分	164分
取組後平均待ち時間	72分	70分
削減時間（削減率）	65分（47%）	94分（57%）

* 1...取組前後での待ち時間が記載されていた事例を集計（取組前後で差異がなかったものも含む）

図表4 気づきから取り組み実施までの期間

	全事例（11事例）*2	参考（10事例）*3
平均期間	4.9ヶ月	3.0ヶ月

* 2...期間が記載されていた11事例を集計

* 3...取組期間が他と比べて長かった1事例（24ヶ月）を除いた結果

7

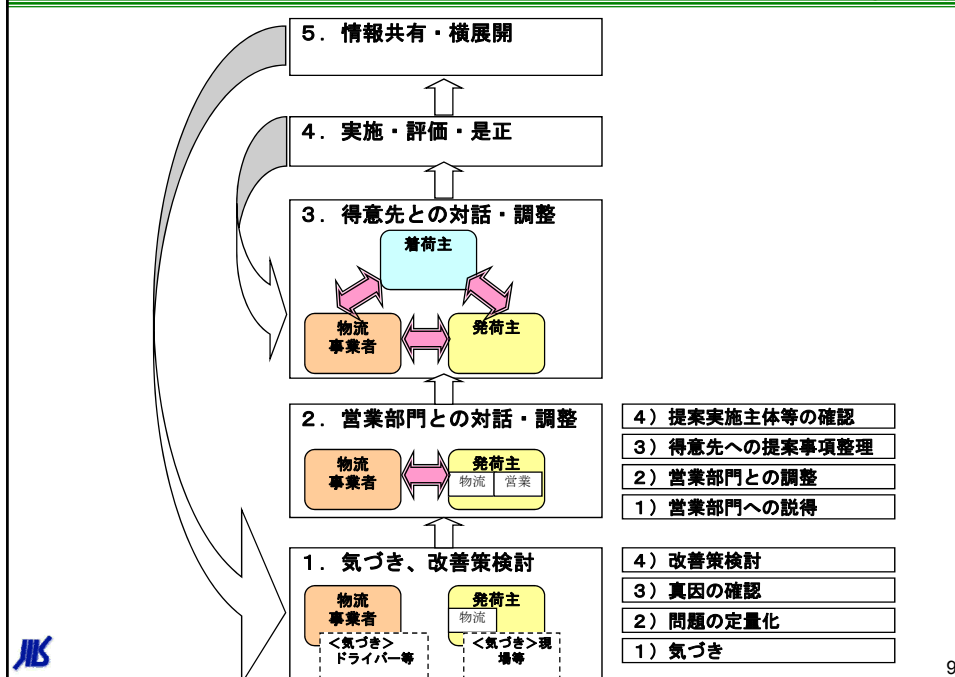
2-3. 事例編の収集タイトル

要因	No	タイトル
要因Ⅰ	1-1	納入先への事前連絡による待ち時間削減
	1-2	配車担当による同行調査及び荷主等との調整による待ち時間削減
	1-3	荷主との調整による待ち時間削減
	1-4	納品時間事前予約による待ち時間削減
	1-5	荷主との協議による待ち時間削減
要因Ⅱ	2-1	一部納品先への時間指定緩和要請
	2-2	指定時間の見直しによる効率的配送ルート構築
	2-3	早期納品予約システムによる平準化促進
	2-4	営業、納入先の理解による効率的配送ルート構築
その他	3-1	一部取引先との調整による午後一納品の実施
	3-2	早朝納品の実施
	3-3	積載量に応じた配送ルート構築
	3-4	有料道路利用による効率的な輸送ルート確立
	3-5	追加料金が発生する旨の伝達
	3-6	得意先への時間をかけた説得

詳細は、
手引きの
P27～59

8

3-1. 改善アプローチ編について



3-2. 1. 気づき、改善策

1) 気づき

- ドライバーの気づき、不満
 - ・特定の得意先だけ待ち時間が長い
(他社のトラックも同じような時間に到着して待っている)
 - ・運転をしていると、遠回りをしている印象を受ける
- 配送センターでの気づき
 - ・特定の得意先へ配送するトラックだけ積載率が低い
 - ・特定の得意先に緊急出荷が多い



<ドライバーへのヒアリングシートの例>

- 1 積み込み時
- 2 運転中
- 3 荷降ろし時
- 4 その他

- ①他の得意先との比較
- ②以前との比較
- ③その他の気づきやアイデア

3) 真因の確認

- 得意先側の真因の確認

物流に係わる取引条件等の確認

時間指定	特殊な搬入場所 (2階への運搬、台車での運搬等、 駐車場所と搬入場所の距離の遠近)
受注締め切り時間	
受注手段(EDI/FAX/電話)	付帯作業
リードタイム	備品等の持参、着用(台車、白衣、マスク)
最低受注ロット(バラ、ケース、パレット、トラック)	アイテム数
納入頻度(1日2回、1日1回、週2-3回)	その他(レンタルパレット契約店か否か)
緊急出荷の回数	当該得意先への配送に係るコスト、運賃契約等 (車建、個建、料率等)
納品車輛(10トン車不可等の納品車輛制限の有無)	

3-3. 2. 営業部門との対話、調整

【営業部門が前向きにならない要因】

- ①得意先にサービスレベルを変える提案をすることへの躊躇
- ②売上高、市場シェア優先
- ③(コスト削減に寄与した場合)成果は誰のものか?
- ④調整にかかる手間



【営業部門への説得材料の例】

項目	
1	得意先別の物流費の提示
2	ほぼ同規模の他得意先の物流費、サービスレベルの比較提示
3	得意先の課題解決
4	環境負荷低減 ●東京都環境確保条例における買主(着荷主側)に省CO2を促す動き
5	経営層の理解・方針
6	本冊子の提示
7	その他



3-3. 3. 得意先との対話・調整

得意先に対して提案しにくいと言われているが・・・

<合理性のない時間指定の場合>

- ・他業者の納品実態等を事前準備し、理解を求めたところ、**過去からの慣例的な指定**、あるいは**担当者の個人的見解による指定**のため、変更可能であった。
- ・待機させられている**トラックがほとんど同じ時間指定**であった。
- ・最終的に入庫しなければならない時間を確認し、その時間に間に合う形でルートを組み直した。

<得意先側の課題解決につながる場合>

- ・荷受の**平準化に寄与**した。
- ・早朝納品でも問題がなく、むしろ歓迎されるケースもあった。

取り組みが進めやすいケース

【ポイント】

- ・時間をかけた**粘り強い協議**により**相互理解**を深める。
- ・着荷主側への**デメリットがないことを強調**する。
- ・得意先の仕入れ部門で物流に関する理解がない場合において、**得意先の物流部門や(得意先の)委託物流業者を交えた協議が可能かどうか調整**してみる。

4. 今後の検討課題...「待ち時間」の共通指標化

待ち時間 = 荷降ろし待ち時間 + 荷降ろし時間 + 付帯作業時間 + その他

荷降ろし待ち時間…納品先に到着し、受付をしてから、実際に荷降ろし作業を開始するまでの時間

荷降ろし時間 …トラックからの荷降ろしから入荷検品までに要する時間

付帯作業時間 …入荷検品後にドライバーが納品先庫内で行う作業に要する時間

例：棚入れ、賞味期限順（先入れ先出し）になるように入れ替え、ラベル貼り等

配車・配送効率の悪化による輸送量あたりCO₂増

待ち時間

アイドリングによるCO₂

- ・CO₂との関係が分かり、かつ発荷主、物流事業者、着荷主が共通して把握できる指標
- ・「待ち時間削減」の取り組みを行った着荷主側にも成果が出る(見える)指標

→マクロデータ等から、「待ち時間1分削減により、CO₂がこの程度削減する」といった指標ができないか？

【想定される課題】

- ・マクロデータであり、実際のCO₂排出量とは一致しない
- ・原単位の値が小さければ、削減へのトリガーとならない
- ・算定に係る工数 逆にピンポイント指定が増加する可能性

グリーンロジスティクス チェックリスト調査WG

ロジスティクス環境会議
グリーンロジスティクス
チェックリスト調査WG
幹事 矢野 裕児



1-1. 当WGの役割と運営体制

【目的】

第2期環境会議で策定した

「**グリーンロジスティクスチェックリスト**」の普及を通じて、
ロジスティクス分野での環境負荷低減を推進する

⇒ **ロジスティクス環境宣言の推進**

【メンバー】（敬称略 * 幹事）

* 流通経済大学	矢野 裕児
* (株)ロジスティクス革新パートナーズ	菅田 勝
東芝物流(株)	堀口 英雄



ロジスティクス環境会議
Conference on Green Logistics in Japan

1-2. グリーンロジスティクスチェックリストとは

特長1

グリーンロジスティクスチェックリスト Ver1.0

特長2

特長3

項目	チェック項目	評価項目				参考事例、関連情報等
		0: 出来ていない	1: 遅れ気味で努力中	2: ほぼ満足できている	3: かなり出来ている	
1	企業の環境方針、行動計画等は、トップのコミットメントにより策定されている。	企業の環境方針、行動計画等を策定していない。	企業の環境方針、行動計画等は、トップのコミットメントにより策定されているが、トップのコミットメントが弱い、もしくはトップのコミットメントの実績が不確実である。	企業の環境方針、行動計画等は、トップのコミットメントにより策定されている。	企業には、企業の環境方針については、社員のみなさんに周知されている。	トヨタ環境事業に関する「グリーン環境戦略」レポート（環境省2010年4月） http://www.environment.go.jp/press/201004/1004040101.pdf
2	環境委員会や環境部門で、ロジスティクス分野における方針が策定されている。	ロジスティクス分野における方針が策定されていない。	ロジスティクス分野における方針が策定されているが、具体的内容が不明である。	ロジスティクス分野における方針が策定されているが、具体的内容が不明である。	ロジスティクス分野における方針、目標、実施計画を策定し、それに従って活動を展開している。	トヨタ環境事業に関する「グリーン環境戦略」レポート（環境省2010年4月） http://www.environment.go.jp/press/201004/1004040101.pdf
3	グリーンロジスティクス推進する体制が構築されている。	グリーンロジスティクス推進する体制が存在しない。	環境部門の設置、もしくは環境推進部が設置されているが、推進体制が不明である。	各事業所を軸とした各社員の環境意識が醸成され、それぞれ責任を持って活動している。	企業に加え、外部で、定期的にセミナーが開催されている。	トヨタ環境事業に関する「グリーン環境戦略」レポート（環境省2010年4月） http://www.environment.go.jp/press/201004/1004040101.pdf
4	グリーンロジスティクス推進に向けた取組があり、周知徹底している。	グリーンロジスティクス推進に向けた取組は存在しない。	取組の計画は策定されているが、取組内容は不明である。	取組の計画は策定されているが、取組内容は不明である。	取組の計画は策定し、会社に周知徹底している。	トヨタ環境事業に関する「グリーン環境戦略」レポート（環境省2010年4月） http://www.environment.go.jp/press/201004/1004040101.pdf

特長1：全86項目 活動推奨チェック項目

➡ 環境方針展開、組織体制構築から、物流部門にとって身近な活動項目、さらには他部門・パートナーとの連携を 意識した活動項目まで網羅

特長2：1～4迄の4段階の実施レベル(活動水準)評価

➡ 調査では、1から4回答欄には実施度合い(1. 出来ていない、2. 遅れ気味、3. まずまず、4よくできている)、もしくは0(該当しない)の5つのうち該当する番号を回答いただく。

特長3：豊富な参考事例・関連情報の掲載(行政・団体・企業等)

3

ロジスティクス環境会議
Conference on Green Logistics in Japan

1-3. 2009年度 活動内容

1. 参考情報欄の改訂(86項目中45項目)

- 08年度調査で回答者から質問があった項目への解説の追加
- 行政機関が新たに発行したマニュアル等の追加

・グリーン物流パートナーシップ推進事業 事例集

http://www.greenpartnership.jp/pdf/proposal/result_list/case.pdf

・物流省エネ事例集(北海道経済産業局)

http://www.hkd.meti.go.jp/hokne/butsu_shoene/pamphlet.pdf

2. 調査実施

- 調査実施 (2009年9月～11月)
- 集計 (2009年11月～12月)
- 簡易診断結果送付 (2010年1月)

自社取組レベルの水準、並びに 同業他社などと比べて、概ねどの程度の位置にあるかが分かる資料

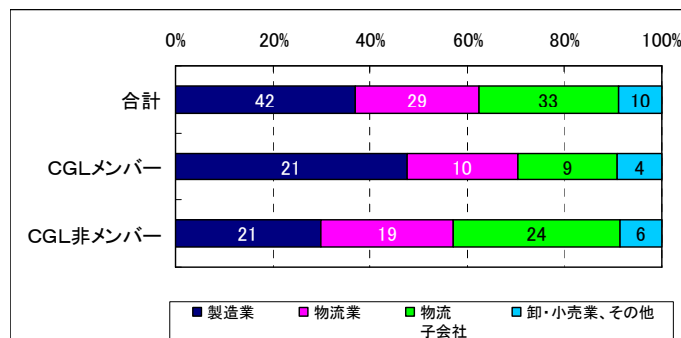
3. 調査結果等の普及啓発

- グリーンロジスティクス講演会 (2010年3月1日)

4

2-1. 回答数

	合計	業種別				
		製造業	物流業	物流 子会社	卸・小売業 、その他	
回答数	114	42	29	33	10	
うち連続回答数	68	28	13	20	7	
CGL	CGLメンバー	44	21	10	9	4
	CGL非メンバー	70	21	19	24	6



5

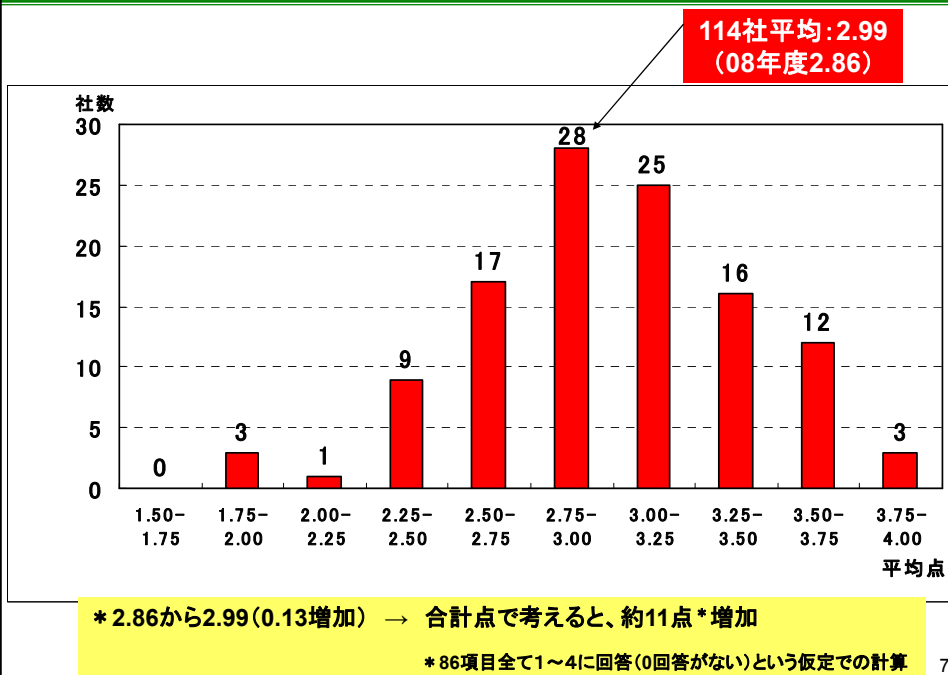
2-2. 調査に御協力いただいた企業一覧(社名50音順)

愛知陸運株式会社	住化ロジスティクス株式会社	パナソニック株式会社
アサヒビール株式会社	住友電気工業株式会社	株式会社バンダイロジバル
味の素株式会社	ソニー株式会社	株式会社日立物流
いすゞドライネックス株式会社	第一貨物株式会社	富士通株式会社
一宮運輸株式会社	ダイハツ輸送株式会社	富士物流株式会社
SRIロジスティクス株式会社	株式会社ダイフク	フットワークエクスプレス株式会社
NECロジスティクス株式会社	太陽誘電株式会社	堀江急配株式会社
株式会社岡村製作所	月島食品工業株式会社	株式会社ホンダロジスティクス
株式会社オカムラ物流	テラーメイドゴルフ株式会社	三井化学株式会社
オリンパスロジテックス株式会社	トーンサービス株式会社	三菱ガス化学株式会社
花王株式会社	東罐ロジテック株式会社	三菱電機ロジスティクス株式会社
カシオ計算機株式会社	東芝物流株式会社	株式会社村田製作所
加藤産業株式会社	東洋製罐株式会社	郵船航空サービス株式会社
キヤノン株式会社	トーゼロ・ロジスティクス株式会社	郵便事業株式会社
キュービー株式会社	株式会社トブコン	株式会社ユーネットランス
協栄流通株式会社	トヨタL&F中部株式会社	雪印乳業株式会社
鴻池運輸株式会社	豊田スチールセンター株式会社	吉川運輸株式会社
コカ・コーラウエストロジスティクス株式会社	トヨタ自動車株式会社	リコーロジスティクス株式会社
国分株式会社	トヨタ部品大阪共販株式会社	
三洋電機ロジスティクス株式会社	日触物流株式会社	
株式会社Jーオイルミルズ	日本トランスシティ株式会社	
シスメックス株式会社	日本ビジネスロジスティクス株式会社	
新日石プラスト株式会社	日本ロジテム株式会社	

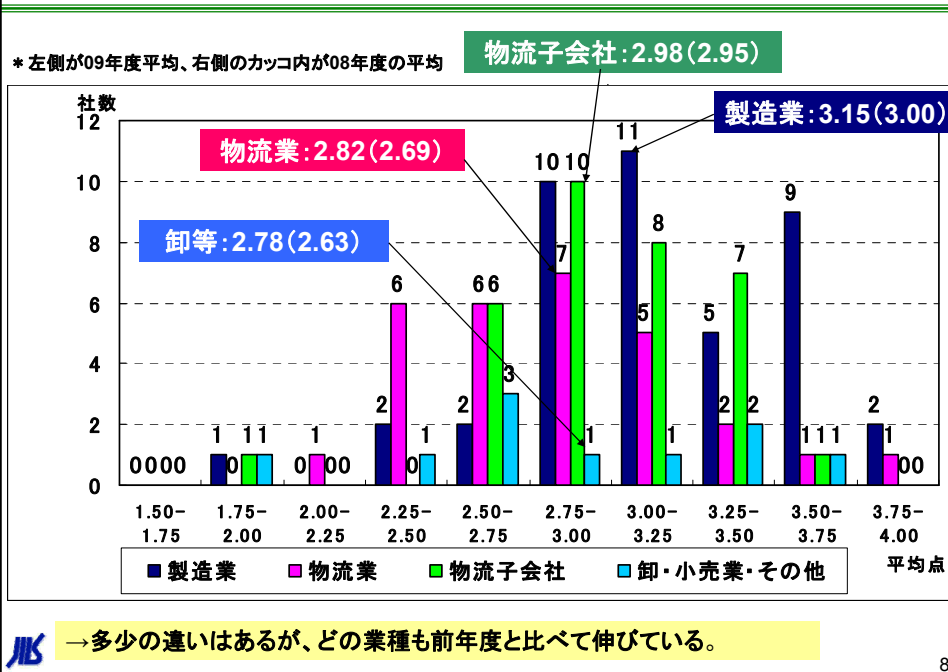
* フェイスシートで企業名公表の承諾を
いただいた企業名のみ掲載しております。

6

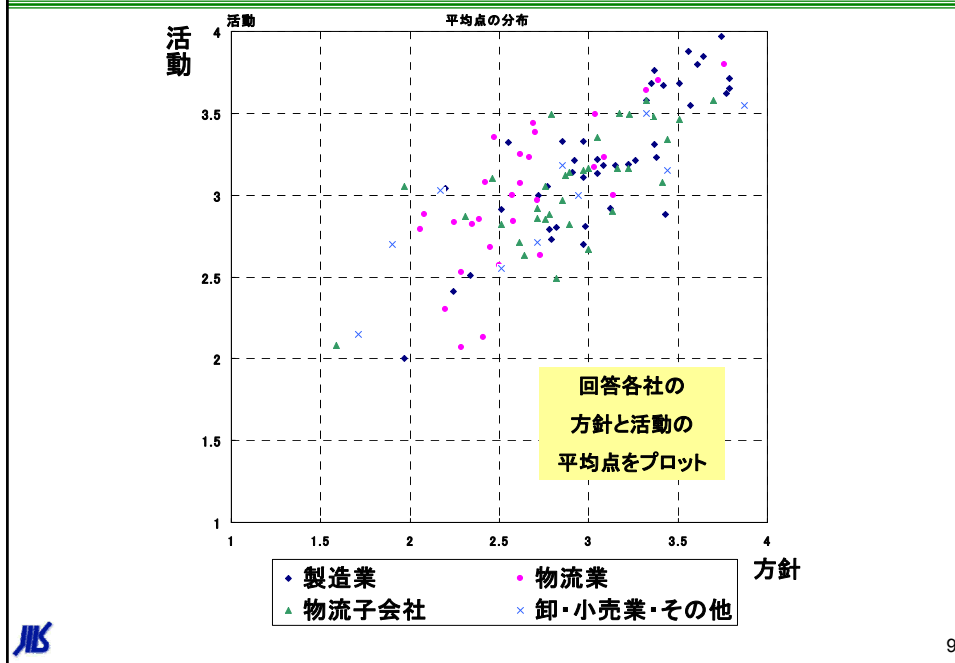
2-3. 全体結果【86項目】(全社)



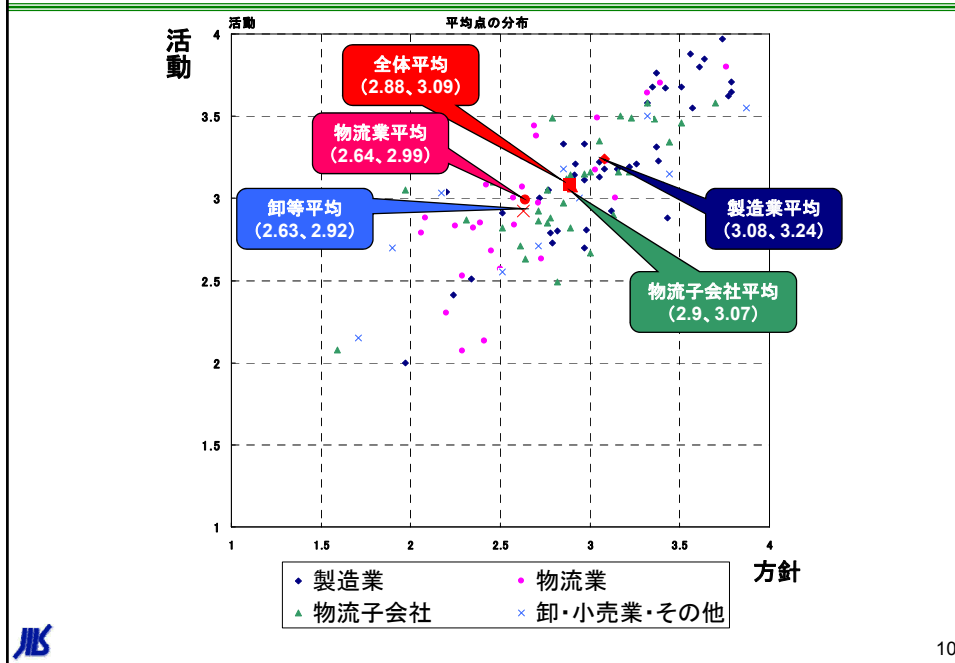
2-4. 全体結果【86項目】(業種別)



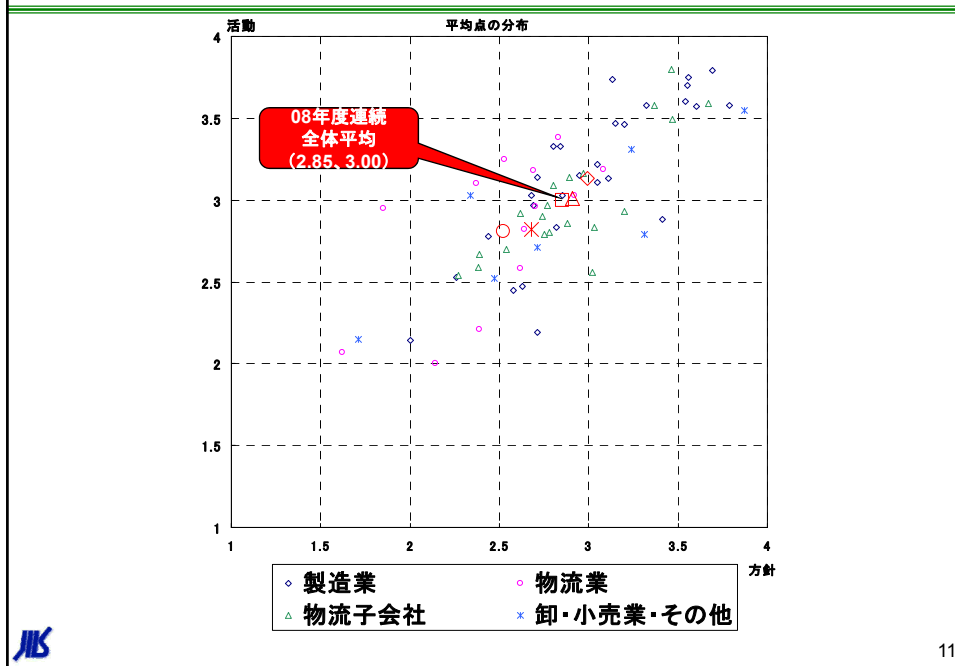
2-5. 方針【41項目】—活動【45項目】別結果(09年度114社)



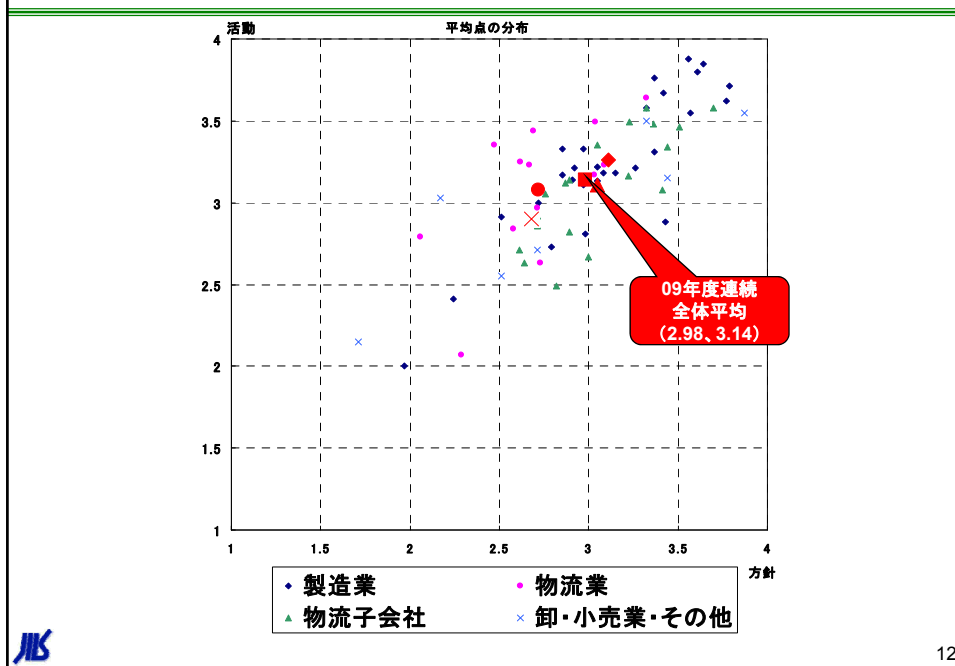
2-6. 方針【41項目】—活動【45項目】別結果(09年度114社、平均)



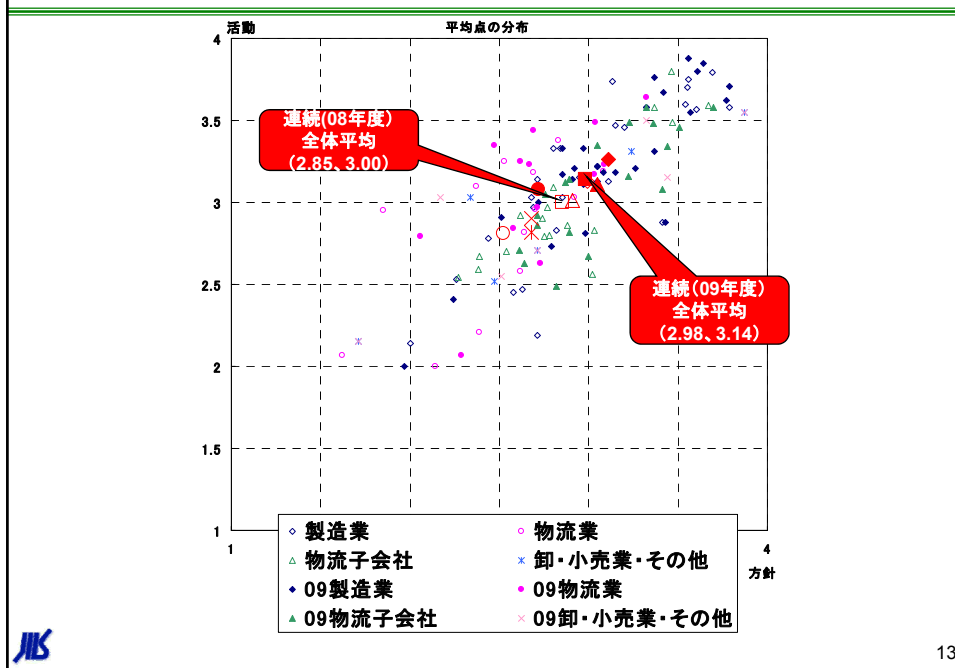
2-7. 方針【41項目】—活動【45項目】別結果(連続回答企業68社:08年度、平均)



2-8. 方針【41項目】—活動【45項目】別結果(连续回答企業68社:09年度、平均)



2-9. 方針【41項目】—活動【45項目】別結果(連続回答企業68社:0809年度、平均)



2-10. 連続回答企業の方針/活動の増減

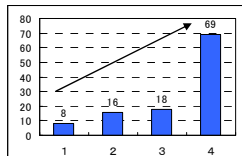
		活動平均			合計
		増加	±0	減少	
方針平均	増加	34	5	4	43
	±0	4	6	1	11
	減少	4	1	9	14
合計		42	12	14	68

* 68社中43社(63%)がこの1年間で点数が伸びた。

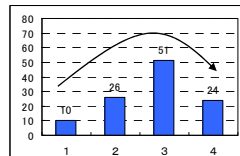
3-1. 回答分布の分類の考え方

- 86の施策全てを対象に、回答「0（該当しない）」を除いた、レベル1から4の波形に基づき、**下記5パターンに分類**

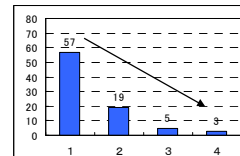
【普及完了型】



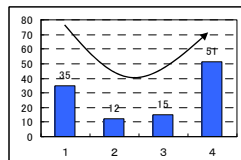
【普及途上型】



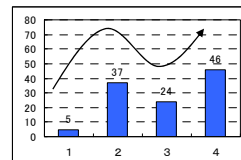
【初動型】



【制約型】



【波型】



3-2. 回答分布の分類の結果

タイプ	09年度結果	08年度からの増減	取組の容易さ	特徴等
普及完了	28	+3	◎	・レベル4目指した活動、レベル4取組の浸透
普及途上	42	+7	○	・レベル2もしくは3で取り組みが止まっている ・阻害要因の把握、除去 ・レベル4取組の浸透
初動型	2	-1	×	・時期尚早？ 設問そのものの妥当性再検討
制約型	4	±0	△	・制約多い？(疎外項目の有無 分析必要)、 ・一気に最後まで
波型	10	-9	？	・上記タイプの合成型 ・内容や実態の分析必要

全86項目

→波型が減少して、普及途上型、普及完了型が増加

4-1. 輸配送関連の施策の平均点		ロジスティクス環境会議 Conference on Green Logistics in Japan
		平均点
2.2③整備		62:タイヤ空気圧(3.6) 63:エアフィルター(3.5) 64:排気ガス目視(3.3)
2.2④エコドライブ		65:エコドライブ活動(3.5) 66:エコドライブ指導(3.4)
2.2⑤ハード	71:バイオ燃料(1.8) 67:クリーンエネルギー自動車(2.9)	70:エコタイヤ(3.1) 68:排気ガス対応車(3.0)
2.2①輸配送計画		56:大型化(3.1) 53:定期検討(3.0) 54:きめ細かい配車計画(3.4) 61:積載方法工夫(3.3) 55:直送化と拠点経由 使い分け(3.2)
2.2②積載率向上	60:調達物流 (ミルクラン)(2.4)	57:帰り荷確保(3.1) 58:混載、共同輸送(3.0) 59:共同配送(3.0)
1.2 生産等		24:輸送効率考慮製品開発(3.0) 26:積載率等考慮生産体制(3.0)
1.3 商取引 (取引先)		29:頻度、LT見直し(3.0) 30:ピーク平準化(2.6) 28:大ロット化(2.7) 31:定刻化待機時間削減(3.1) 27:取引基準設定(2.8)
1.5 モーダル	34:鉄道(2.4) 35:船舶(2.7)	

17

4-2. 輸送関連の施策の平均点(分類)		ロジスティクス環境会議 Conference on Green Logistics in Japan
		平均点
2.2③整備		62:タイヤ空気圧(3.6) 63:エアフィルター(3.5) 64:排気ガス目視(3.3)
2.2④エコドライブ		65:エコドライブ活動(3.5) 66:エコドライブ指導(3.4)
2.2⑤ハード	71:バイオ燃料(1.8) 67:クリーンエネルギー自動車(2.9)	70:エコタイヤ(3.1) 68:排気ガス対応車(3.0)
2.2①輸配送計画	56:大型化(3.1) 53:定期検討(3.0) 55:直送化と拠点経由 使い分け(3.2)	54:きめ細かい配車計画(3.4) 61:積載方法工夫(3.3)
2.2②積載率向上	60:調達物流 (ミルクラン)(2.4)	57:帰り荷確保(3.1) 58:混載、共同輸送(3.0) 59:共同配送(3.0)
1.2 生産等	24:輸送効率考慮製品開発(3.0) 26:積載率等考慮生産体制(3.0)	
1.3 商取引 (取引先)	29:頻度、LT見直し(3.0) 30:ピーク平準化(2.6) 28:大ロット化(2.7) 31:定刻化待機時間削減(3.1) 27:取引基準設定(2.8)	
1.5 モーダル	34:鉄道(2.4) 35:船舶(2.7)	

18

5. グリーンロジスティクス講演会

ロジスティクス環境会議
Conference on Green Logistics in Japan

日時:2010年3月1日(月)13:30-17:30 会場:国際ファッションセンター 出席者:78名

【報告】

グリーンロジスティクスチェックリスト調査結果の概要

【講演1(包装)】

スタッキングチェア「Daylight」におけるエコロジー&エコノミーデザインへの挑戦!!
-2009 日本パッケージングコンテスト経済産業大臣賞「輸出用イスの40脚包装の開発」について-
井関 徹 氏(愛知株式会社 総合企画室 デザイン開発G 次長)

【講演2(輸送)】

JUKIにおけるグリーン物流・モーダルシフトへの取り組み
-2005年第6回鉄道貨物振興奨励賞・最優秀賞受賞、2008年第1回住田物流奨励賞受賞事例を中心として-
荻原 克郎 氏(JUKI株式会社 工業用マシン事業部 物流管理部 主査)

【講演3(施設)】

物流施設における省エネ・環境配慮の実現
-第1回大阪サステナブル建築賞 特別賞受賞事例-
楠本 銀次郎 氏(日本通運株式会社 営業企画部 専任部長)



19

6. 今後の予定

ロジスティクス環境会議
Conference on Green Logistics in Japan

①ホームページでの09年度結果掲載

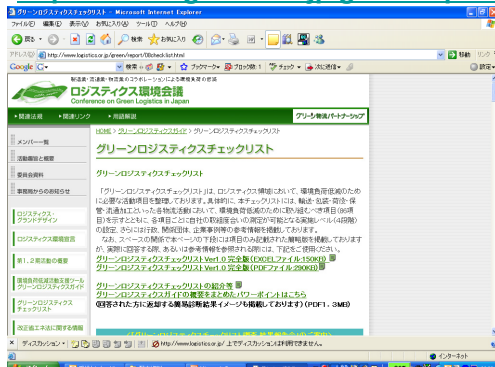
②JILS機関誌「ロジスティクスシステム」での結果報告

③トライアル診断(仮称)の実施 (4月頃から予定)

* 未回答企業を対象に今年度の回答企業114社との比較結果の診断

「グリーンロジスティクスチェックリスト」のページ

<http://www.logistics.or.jp/green/report/08checklist.html> にアクセス



20

<参考資料>

①回答分布の詳細

②包装、荷役・保管・流通加工(分類)



◇普及完了型の項目(その1)			
大	中	No	チェック項目
1.1	①	1	企業の環境方針、行動計画等は、トップのコミットメントにより策定されている。
1.1	①	2	環境委員会や環境部門で、ロジスティクス分野における方針が策定されている。
1.1	①	4	グリーンロジスティクス推進に向けての計画があり、周知徹底している。
1.1	①	8	ロジスティクス分野において、法令遵守徹底に向けて取り組みをしている。
1.1	①	9	ISO14000sを取得している(自己宣言相当の活動をしている)。
1.1	①	13	輸配送に係る環境パフォーマンスを算定している。
1.1	①	15	グリーンロジスティクス推進のため、グループ企業、取引先、業界団体と共同で取り組んでいる。
1.1	①	16	協力会社(備車先等)に対し、環境配慮のための育成・指導を行っている。
1.2	①	23	包装資材の削減を考慮した製品開発を実施している。
1.5	①	40	輸配送車両の削減や積載率を高めるために、共同輸配送を実施している。

◇普及完了型の項目(その2)			
大	中	No	チェック項目
2.1	①	42	使用包装資材包装形態を簡易化(通い箱、ハンガー輸送、部分包装など)している。
2.1	①	43	包装形態を簡易化(通い箱、ハンガー輸送、部分包装など)している。
2.1	①	45	未使用時も減容化しやすい包装材(折りたたみ式通い箱など)を採用している。
2.1	②	48	リターナブル、リユース、リサイクル可能な包装資材、運搬容器を使用している。
2.1	②	49	包装資材の再使用、再資源化、廃棄を考慮して、素材を変更している。
2.1	②	51	有害物質を含まない包装資材を使用している。
2.2	①	54	配送において、物量に応じて、車種、車数、配送ルート、配送回数をきめ細かく見直し、配車計画に反映させている。
2.2	②	61	車両の積載効率向上のために、二段化等、積載方法を工夫している。
2.2	③	62	タイヤ空気圧の測定・補充を定期的に行っている。
2.2	③	63	エアフィルターの点検・清掃・交換を定期的に行っている。
2.2	③	64	排気ガスの色を目視で確認している。
2.2	④	65	エコドライブに係るマニュアル等を用いて、エコドライブ活動を実施している。
2.2	④	66	デジタコ等を活用し、ドライバーへエコドライブ指導を実施している。
2.3	①	70	エコタイヤを導入している。
2.3	①	73	効率的な人員配置と機器運用により、稼働時間の短縮を実現している。
2.3	②	76	入荷と出荷の車両が混雑・交錯・滞留しないように、施設・レイアウト設計の工夫、もしくはタイムスケジュール管理を行っている。
2.3	②	82	冷蔵・冷凍倉庫において、できるだけ外気が侵入しないように工夫している。
2.3	③	84	入庫量、出庫量、保管量を平準化し、保管スペースをコンパクトにしている。

23

◇初動型の項目			
大	中	No	チェック項目
1.1	①	10	エコアクション21を取得している(自己宣言相当の活動をしている)。
2.2	⑤	71	バイオマス燃料を利用している

◇制約型の項目			
大	中	No	チェック項目
1.1	①	18	ロジスティクス分野における環境に対する取り組みを環境報告書や環境レポート等に記載している。
2.1	①	46	無包装化に取り組んでいる。
2.3	②	77	積みおろしに伴う待ち時間のアイドルングを防止するため、ドライバー控室を設置している。
2.3	②	83	冷蔵・冷凍保存が必要な商品が過剰冷却にならないようにしている。

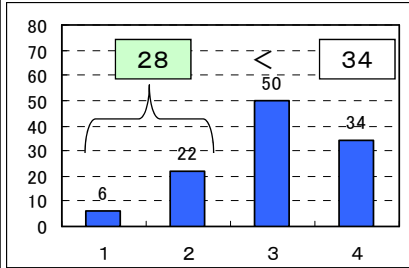
◇波型の項目			
大	中	No	チェック項目
1.1	①	6	ロジスティクス活動において発生する環境負荷の項目を把握している。
1.1	①	11	グリーン経営認証を取得している(自己宣言相当の活動をしている)。
1.1	①	14	包装に係る環境パフォーマンスを算定している。
1.1	①	19	グリーンロジスティクス推進に寄与する、行政等の各種支援策を把握し、活用している。
1.2	①	26	積載率向上又は環境負荷の少ない輸送手段使用といったことに対応した生産体制を構築している。
1.3	①	27	取引先と協力し、取引基準を設定(取引単位を物流単位と整合化するなど)している。
1.5	①	37	標準物流EDI(JTRNなど)を利用し、配送伝票を電子化している。
1.5	①	38	標準輸送ラベルを使用している。
2.3	②	80	荷物積みおろし中の冷凍車のアイドルング防止のため、保冷車用のコンセントを設置している。
2.3	②	81	冷蔵・冷凍倉庫において、代替フロン(HFC)や自然冷媒を使用している。

24

◆普及途上型の分類

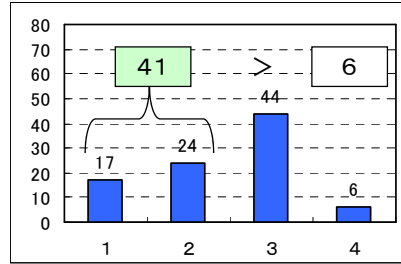
- 普及途上型に該当する42施策のうち、レベル1+レベル2とレベル4の回答数の大小から、下記2パターンに分類

【普及途上型 I型:21施策】



レベル4への移行が困難

【普及途上型 II型:21施策】



レベル3までの移行が困難

→ II型の方が困難な施策と考えられる。

◇普及途上型(I型)の項目

大	中	No.	チェック項目
1.1	①	3	グリーンロジスティクスを推進する体制が構築されている。
1.1	②	20	輸送機関(トラック、船舶等)の大気汚染の防止、軽減の施策を実施している。
1.1	②	22	水質汚濁の防止、軽減の施策を実施している。
1.2	①	24	輸送効率を考慮した製品開発を実施している。
1.3	②	29	取引先と協力し、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し(延長)を実施している。
1.3	②	31	入出荷時間を定刻化し、車両の待機時間を短縮している。
1.4	①	33	環境負荷を考慮に入れた拠点配置を進めている。
1.5	①	36	実需要に即応した体制、又は需要予測の精度を向上させ、無駄な生産、在庫、輸送を削減している。
2.1	③	50	再生素材を原料とする包装資材を使用している(バージン素材を使用しない)。
2.2	①	53	現状の輸送量やリードタイム等を勘案し、環境負荷の少ない輸送手段の使用を定期的に検討している。
2.2	①	55	輸送において、輸送先、輸送量に応じて拠点経由と直送を使い分け、全体で輸送効率を向上している。
2.2	①	56	便数削減のために、トラックの大型化、トレーラー化をすすめている。
2.2	②	57	帰り荷の確保のための工夫(求貨求車システムの導入等)をしている。
2.2	②	58	輸送・取引単位が小ロットの場合は混載や共同輸送を利用している。
2.2	②	59	得意先への配送の際には、他社との共同配送により積載率を高めている。
2.2	⑤	68	最新の排気ガス規制に対応したトラックを前倒しで導入している。
2.3	①	74	環境負荷の低減を考慮して、物流機器の使用の制限や適切な能力の機器の選択を行っている。
2.3	②	75	物流量の変動並びに作業動線を考慮して、倉庫レイアウト、あるいは在庫レイアウトを変更している。
2.3	②	78	電力設備、照明、空調に省エネ機器を導入している。
2.3	②	79	ラック、ネステナー、パレットサポーター等によって保管効率を向上させる工夫をしている。
2.3	③	85	不動在庫、不良在庫等の無駄な在庫を削減し、保管スペースをコンパクトにしている。

◇普及途上型(Ⅱ型)の項目			
大	中	No	チェック項目
1.1	①	5	グリーンロジスティクス推進のため、社員へ教育(人材育成)を行っている。
1.1	①	7	海外拠点を含めて、ロジスティクス分野における環境対策を実施している。
1.1	①	12	ロジスティクス活動に伴って発生する廃棄物の再資源化に向けて取り組んでいる。
1.1	①	17	物流拠点の周辺住民と共に、環境負荷(騒音、振動、ゴミ等)の軽減に向けた取り組みを実施している。
1.1	②	21	騒音・振動の防止、軽減の施策を実施している。
1.2	②	25	物流に関する記載が含まれた製品アセスメントガイドラインやマニュアルを利用して、製品評価を実施している。
1.3	①	28	取引先にインセンティブ(ロット割引等)を提供して、輸送単位を大きくするように誘導している。
1.3	②	30	取引先と協力し、輸送量のピーク期間を移動させることにより平準化している。
1.3	③	32	返品抑制のために、返品物流費の有償化や売買契約(納品条件)の見直し等の施策を実施している。
1.4	②	34	輸送に鉄道を利用している。
1.4	②	35	輸送に船舶(フェリーを含む)を利用している。
1.5	②	39	ユニットロードシステムを導入している。
1.6	②	41	物流拠点を他社と共同で利用している。
2.1	①	44	小箱包装を廃止して大箱にまとめている。
2.1	②	47	運搬容器やパレットのリユースについて、全社でシステム化し管理している。
2.1	④	52	省エネ型、低公害型の包装用機器を導入している。
2.2	②	60	調達物流においてミルクラン方式(共同運行含む)を利用している。
2.2	⑤	67	クリーンエネルギー自動車を導入している。
2.2	⑤	69	エンジン停止時も冷凍機能が停止しない冷凍車を使用している。
2.3	①	72	環境負荷の高い物流機器を削減し、省エネ型物流機器、低公害型物流機器を導入している。
2.3	④	86	ラベルやラベルインキ、テープ、養生資材等の購入の際に、素材を考慮している(グリーン購入)。 27

4-3. 包装関連の施策の平均点		ロジスティクス環境会議 Conference on Green Logistics in Japan
		平均点
2.1④低公害機器導入	52:省エネ・低公害型機器(2.7)	
2.1③低環境負荷素材	49:再資源化等を考慮した素材変更(3.0) 50:再生素材使用(2.9) 51:有害物質含まない素材使用(3.4)	
2.1②リユース、リサイクル	47:リユースをシステム化管理(2.7) 48:リターナブル、リサイクル可能な資材等使用(3.2)	
2.1①廃止・スリム化	44:大箱化(2.6) 46:無包装化(2.3) 42:薄肉化軽量化(3.2) 43:簡易化(通い箱等)(3.2) 45:未使用時減容化採択(3.1)	
1.2①生産等	(24:輸送効率考慮製品開発(3.0)) 23:包装削減考慮製品開発(3.3)	
1.3 商取引	27:取引基準設定(2.8) 28:大ロット化(2.7)	
1.1 GL仕組み・体制	14:包装の環境パフォーマンス(2.4) 12:ロジ活動廃棄物再資源化(2.8)	
		28

ロジスティクス環境会議
Conference on Green Logistics in Japan

4-4. 包装関連の施策の平均点(分類)

	平均点
2.1④低公害機器導入	52:省エネ・低公害型機器(2.7)
2.1③低環境負荷素材	49:再資源化等を考慮した素材変更(3.0) 50:再生素材使用(2.9) 51:有害物質含まない素材使用(3.4)
2.1②リユース、リサイクル	47:リユースをシステム化管理(2.7) 48:リターナブル、リサイクル可能な資材等使用(3.2)
2.1①廃止・スリム化	44:大箱化(2.6) 46:無包装化(2.3) 42:薄肉化軽量化(3.2) 43:簡易化(通い箱等)(3.2) 45:未使用時減容化採択(3.1)
1.2①生産等	24:輸送効率考慮製品開発(3.0) 23:包装削減考慮製品開発(3.3)
1.3 商取引	27:取引基準設定(2.8) 28:大ロット化(2.7)
1.1 GL仕組み・体制	14:包装の環境パフォーマンス(2.4) 12:ロジ活動廃棄物再資源化(2.8)

注: 図中の注釈
 - 投資等のコスト (52, 50)
 - 物流部門主導で可能 (49, 51)
 - 他社との調整必要 (44, 46)
 - 物流センターでは、包装材が多数?

29

ロジスティクス環境会議
Conference on Green Logistics in Japan

4-5. 荷役・保管・流通加工関連の施策の平均点

	平均点
2.3④資材	76:ラベル等の資材素材考慮(2.7)
2.3①機器導入・運用工夫	74:使用制限・機器選択(2.8) 72:省エネ・低公害型機器(2.9) 73:人員配置・機器運用(3.1)
2.3②施設設計・レイアウト	78:電力設備等省エネ機器(3.2) 77:控室設置(3.3) 76:入出荷車両滞留防止のためのタイムスケジュール管理(3.5) 75:倉庫・在庫レイアウト変更(3.3) 79:保管効率向上(3.3)
2.3③物量の平準化	84:平準化による保管スペースコンパクト化(3.1) 85:不動在庫削減による保管スペースコンパクト化(3.3)
1.5⑤情報化	36:無駄な生産、在庫、輸送削減(3.1)

30

4-6. 荷役・保管・流通加工関連の施策の平均点	
	平均点
2.3④資材	76:ラベル等の資材素材考慮(2.7)
2.3①機器導入・運用工夫	74:使用制限・機器選択(2.8) 72:省エネ・低公害型機器(2.9) 73:人員配置・機器運用(3.1)
2.3②施設設計・レイアウト	投資等のコスト 78:電力設備等省エネ機器(3.2) 77:控室設置(3.3) 76:入出荷車輛滞留防止のためのタイムスケジュール管理(3.5) 75:倉庫・在庫レイアウト変更(3.3) 79:保管効率向上(3.3)
2.3③物量の平準化	84:平準化による保管スペースコンパクト化(3.1) 85:不動在庫削減による保管スペースコンパクト化(3.3)
1.5⑤情報化	36:無駄な生産、在庫、輸送削減(3.1) 物流部門主導で可能
31	

第3期ロジスティクス環境会議 省エネ法実態調査について

1. 目的

省エネ法で特定荷主、特定輸送事業者に作成、提出が義務付けられている定期報告書、計画書を収集し、環境会議メンバーにおけるエネルギー使用量や判断基準の遵守状況等の概況を集計、分析する。

なお、本調査は、今年度で3回目となることから、可能な範囲で経年変化の比較も行うこととする。

2. 2009年度の活動内容

(1) 調査実施 (2009年8月7日～9月10日)

- ・回答企業数：合計29社（特定荷主23社、特定輸送事業者6社）

(2) 結果集計 (2009年9月10日～10月13日)

(3) 結果報告 (2009年10月14日～)

- ・**環境会議ホームページ**に集計結果の概要版を掲載 (2009年10月14日)

→<http://www.logistics.or.jp/green/info/pdf/result091014.pdf>

- ・回答者への結果報告 (2009年10月14日)

- ・**第13回グリーン物流研究会での結果報告** (2009年10月21日)

→「2009年度 グリーン物流研究会 活動報告書」(P205～225)

- ・環境会議メールマガジン「CGLニュース vol.38」に紹介 (2009年10月30日)

以 上

環境教育冊子「グリーン物流ってなんだろう？」の発行について

1. 作成の経緯

ロジスティクス環境会議では、これまで企業メンバーを対象としたツール等を開発してきたが、今回、企画運営委員会において、物流・ロジスティクスに携わる企業等が、児童を対象に物流・ロジスティクスに関する環境教育を行うことにより、①物流・ロジスティクスへの理解、②環境に優しい行動の実践を促すことをねらいとして、環境教育冊子「グリーン物流ってなんだろう？」の作成を行った。

2. 配布経過

下記のとおり、冊子版の配布及びメールマガジンでの紹介等を行った。

図表1 配布等のスケジュール

	環境会議メンバー	J I L S	その他
実施 済	<u>2月8日(月)</u> ・CGLニュースによる案内 ・ホームページに掲載 <u>2月9日(火)</u> ・メンバーへ郵送	<u>2月12日(金)</u> ・グリーンロジスティクス管理士 資格取得者へメールによる案内	
	<u>2月16日(火)</u> ・取引委員会で配布、報告 <u>2月19日(金)</u> ・包装委員会で配布、報告	<u>2月17日(水)</u> ・第7回グリーン物流基礎コース 受講者へ配布	<u>2月16日(火)</u> ・プレスへ郵送 <u>2月18日(木)</u> ・経産省、国交省へ配布 ・その他オブザーバーへの 郵送
	<u>3月1日(月)</u> グリーンロジスティクス講演会 <u>3月10日(水)</u> 第3回本会議	<u>2月26日(木)</u> J I L S 会員窓口宛に郵送 <u>3月～</u> J I L S 各種委員会	<u>3月</u> ・都道府県等の教育委員会、 環境教育部局への郵送 ・消費者団体への郵送

3. 次年度以降の予定

本冊子の主な対象である、小学校5、6年生の児童の手に渡り、見てもらえるような活動の実施を検討する。

<活動例>

- グリーン物流研究会等で関係がある自治体、あるいは関心を持っていただいた自治体との連携による取り組みの検討
- 環境会議メンバー企業等が実施する出前授業、見学受入れ等を通じた配布

以上

情報提供活動について

1. シンポジウム、講演会等のイベントについて

1) 概要

環境会議全メンバーを対象に、委員会の活動成果等に関する情報発信、もしくは研究会、委員会ではとりあげていないテーマに関する情報提供等を目的に実施。

第3期では下記4つの催事を開催した。(詳細は別紙1参照)

2) 2008年度の活動内容

(1) 「ロジスティクス環境会議 第2期委員会活動 成果発表会」の開催

日 時：2008年6月6日(金) 13:20～16:50

会 場：人事労務会館/東京・港区

参加人数：69名

(2) 「グリーンロジスティクスチェックリスト調査 結果報告会」の開催

日 時：2009年2月12日(木) 14:30～16:30

会 場：国際ファッションセンタービル/東京・墨田区

参加人数：103名

3) 2009年度の活動内容

(1) 公開制研究会「循環型社会構築を考える」の開催

日 時：2009年8月7日(金) 13:30～16:40

会 場：アイビーホール青学会館/東京・渋谷区

参加人数：66名

*第11回グリーン物流研究会をメンバー外にも公開する形で実施

(2) グリーンロジスティクス講演会の開催

日 時：2010年3月1日(月) 13:30～17:00

会 場：国際ファッションセンタービル/東京・墨田区

参加人数：78名

2. 媒体を通じた情報提供について

1) 『CGLニュース』と『CGLジャーナル』による発信

本会議をはじめ、研究会、委員会の活動経過、各種催事、行政動向等について、以下の媒体を用いて、情報発信を実施。

2) 2009年度の活動内容

(1) 『CGLニュース』(電子メール)

行政からの報道発表等を中心とした速報的内容について22号配信

(第3期活動期間で計44号配信) (詳細は別紙2参照)

(2) 『CGLジャーナル』(冊子)

Vol.1 2008年12月1日

・省エネ法実態調査 結果報告特別号

Vol.2 2009年3月24日

・グリーンロジスティクスチェックリスト調査 結果報告会

Vol.3 2010年3月末(予定)

・第3回本会議 結果報告

以 上

環境教育冊子 「グリーン物流ってなんだろう？」について



ロジスティクス環境会議
企画運営委員会
麦田 耕治



1. 背景

第3期第1回本会議(2008年7月31日)

岡部副議長 閉会挨拶(抜粋)

「物流・ロジスティクス分野における環境負荷低減の一層の推進に向けては、**一般消費者の方々**、あるいは**未来を担う子供たち**に広くご理解いただくということも、たいへん意義深いことである。

この環境会議においても、関係各省の方々、あるいは**グリーン物流パートナーシップ会議との連携・協力**等の中で、これらにつながる活動ができればと個人的に考えている。」

【一般消費者対象】

第8回グリーン物流パートナーシップ会議
(2009年12月10日開催)

パネルディスカッション
「消費者が変える物流」

【児童対象】

第4回企画運営委員会
(2009年11月13日開催)

CGLジャーナルの特集として「環境教育を進める際に参考となる情報提供」の提案

↓
「環境教育冊子」の制作

ロジスティクス環境会議
Conference on Green Logistics in Japan

2. 「グリーン物流ってなんだろう？」の内容(その1)

はじめに

①地球温暖化を考えよう

はじめに～2020年に大人になるみなさんへ～

↓

小学校5、6年生が主な対象
(←小学校5年生の社会科「運輸」)

②ごみ問題を考えよう

3

ロジスティクス環境会議
Conference on Green Logistics in Japan

3. 「グリーン物流ってなんだろう？」の内容(その2)

③物流を知ろう

⑤地球環境のためにみなさんにできること

④環境にやさしい物流(グリーン物流)を知ろう

4

4. 配布経過		ロジスティクス環境会議 Conference on Green Logistics in Japan	
	環境会議メンバー	JILS	その他
2月	<p>2月8日(月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CGLニュースによる案内 ・ホームページに掲載 <p>2月9日(火)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバーへ郵送 <p>2月16日(火)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第12回取引委員会で配布、報告 <p>2月19日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第12回包装委員会で配布、報告 	<p>2月12日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グリーンロジスティクス管理士資格取得者へメール案内 <p>2月17日(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第7回グリーン物流基礎コース受講者へ配布 <p>2月26日(木)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JILS会員窓口宛に郵送 	<p>2月16日(火)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレスへ郵送 <p>2月18日(木)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オブザーバーへ配布、郵送
3月	<p>3月1日(月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グリーンロジスティクス講演会で配布 <p>3月10日(水)</p> <p>第3回本会議</p>	<p>3月～</p> <p>JILS各種委員会</p>	<p>3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都道府県等の教育委員会、環境教育部局への郵送 ・消費者団体への郵送

5

5. 次年度以降の予定	ロジスティクス環境会議 Conference on Green Logistics in Japan
<p>本冊子の主な対象である、小学校5、6年生の児童の手に渡り、見てもらえるような活動の検討</p> <p><活動例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●グリーン物流研究会等で関係がある自治体、あるいは関心を持っていただいた自治体との連携による取り組みの検討 ●環境会議メンバー企業等が実施する出前授業、見学受入れ等を通じた配布 	

6

講演会等のイベントの結果報告

1. ロジスティクス環境会議 第2期委員会活動 成果発表会

1) 結果概要

- 日 時：2008年6月6日（金） 13:20～16:50
- 会 場：人事労務会館／東京・港区
- 参加料金：無 料
- 参加人数：69名
- 主 催：(社)日本ロジスティクスシステム協会 ロジスティクス環境会議

2) プログラム

時 間	内 容
13:20～13:25	開 会
13:25～14:10	発表① 【CO ₂ 削減推進委員会 モーダルシフトWG活動報告】 「鉄道へのモーダルシフトのさらなる推進に向けて」 第2期ロジスティクス環境会議 CO ₂ 削減推進委員会 副委員長 モーダルシフトWG 幹事 高松 孝行 氏（トヨタ自動車(株) 物流企画部 主査）
14:10～14:15	休 憩
14:15～15:00	発表② 【CO ₂ 削減推進委員会 燃費向上WG活動報告】 「輸送事業者と発・着荷主の連携によるエコドライブ推進」 第2期ロジスティクス環境会議 CO ₂ 削減推進委員会 副委員長 燃費向上WG 幹事 石崎 雅規 氏（東芝物流(株) 物流技術部 品質・環境管理部 参事）
15:00～15:10	休 憩
15:10～15:55	発表③ 【グリーンサプライチェーン推進委員会 源流管理分科会活動報告】 「グリーンロジスティクスチェックリスト活用のすすめ」 第2期ロジスティクス環境会議 グリーンサプライチェーン推進委員会 副委員長 源流管理分科会 幹事 矢野 裕児 氏（流通経済大学 流通情報学部 教授） 菅田 勝 氏（リコーロジスティクス(株) クオリティー（KAIZEN）アドバイザー 株式会社ロジスティクス革新パートナーズ 代表取締役）
15:55～16:00	休 憩
16:00～16:45	発表④ 【グリーンサプライチェーン推進委員会 取引条件分科会活動報告】 「取引条件を考慮した環境負荷低減施策に関する提案-加工食品をモデルとして-」 第2期ロジスティクス環境会議 グリーンサプライチェーン推進委員会 副委員長 取引条件分科会 幹事 恒吉 正浩 氏（味の素(株) 食品カンパニー 物流企画部 企画グループ長）
16:45～16:55	「第3期環境会議の設置委員会の概要と今後のスケジュール」 ロジスティクス環境会議 事務局
16:55	閉 会

* 役職は開催時点のもの

2. グリーンロジスティクスチェックリスト調査 結果報告会

1) 結果概要

- 日 時：2009年2月12日（木） 14：30～16：30
- 会 場：国際ファッションセンタービル / 東京・墨田区
- 参加料金：無 料
- 参加人数：103名
- 主 催：(社)日本ロジスティクスシステム協会 ロジスティクス環境会議

2) プログラム

時刻	内 容
14：30～14：35	【開 会】 矢野 裕児 氏 （流通経済大学 流通情報学部 教授 （CGL グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG 幹事））
14：35～15：00	【報 告】 「グリーンロジスティクスチェックリスト調査結果の概要」 栗原 純一 （社団法人日本ロジスティクスシステム協会 ロジスティクス環境推進センター）
15：00～16：25	【パネルディスカッション】 「グリーンロジスティクスチェックリスト活用のすすめ」 <コーディネータ> 北條 英 （社団法人日本ロジスティクスシステム協会 JILS総合研究所 主任研究員） <パネリスト> 矢野 裕児 氏 （流通経済大学 流通情報学部 教授 （CGL グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG 幹事）） 菅田 勝 氏 （リコーロジスティクス株式会社 クオリティー（KAIZEN）アドバイザー 株式会社ロジスティクス革新パートナーズ 代表取締役 （CGL グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG 幹事）） 上田 詔俊 氏 （鴻池運輸株式会社 環境部 課長） 堀口 英雄 氏 （東芝物流株式会社 品質・環境管理部 参与 （CGL グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG））
16：25～16：30	【閉 会】

* 役職は開催時点のもの

3. 公開制研究会「循環型社会構築を考える」

1) 結果概要

- 日 時：2009年8月7日（金） 13：30～16：40
- 会 場：アイビーホール 青学会館／東京・渋谷区
- 参加料金：環境会議メンバー企業：無料
メンバー以外
 - JILS会員企業：10,500円（1名：消費税込み）
 - JILS非会員企業：21,000円（1名：消費税込み）
- 参加人数：66名
- 主 催：(社)日本ロジスティクスシステム協会 ロジスティクス環境会議

2) プログラム

時刻	内容
13：30～13：35	開 会 ロジスティクス環境会議 グリーン物流研究会 幹事 (株式会社日本総合研究所 総合研究部門 上席主任研究員) 下村 博史 氏
13：35～14：30	基調講演 「資源循環型社会構築に向けた展望」 ●現在の廃棄物処理・リサイクルの状況の概観 ●新しい資源循環レジームの構築 ●静脈物流ビジネスの意味 慶應義塾大学 経済学部 教授 細田 衛士 氏
14：30～14：40	休憩
14：40～15：35	事例 1 「循環型リサイクルシステムの紹介 —エコサークル®の具体例—」 ●帝人(株)の環境に対する考え方 ●エコサークル®の仕組み ●エコサークル®の具体例 帝人ファイバー株式会社 マーケティング部 部長 大河原 茂 氏
15：35～15：45	休憩
15：45～16：40	事例 2 「総合物流事業による地域社会への貢献 —循環型社会の構築を目指して—」 ●会社概要、環境取り組み概要 ●リサイクル事業への取り組み ●今後の展開 横手運送株式会社 代表取締役 塩田 謙三 氏
16：40	閉 会

* 役職は開催時点のもの

4. グリーンロジスティクス講演会

1) 結果概要

- 日 時：2010年3月1日（月） 13：30～17：00
- 会 場：国際ファッションセンタービル / 東京・墨田区
- 参加料金：環境会議メンバー企業
 チェックリスト調査回答企業：無 料
 上記以外
 - J I L S 会員企業 ：10,500 円（1名：消費税込み）
 - J I L S 非会員企業 ：21,000 円（1名：消費税込み）
- 参加人数：78名
- 主 催：(社)日本ロジスティクスシステム協会 ロジスティクス環境会議

2) プログラム

時 刻	内 容
13：30～13：35	【開 会】 矢野 裕児 氏 （流通経済大学 流通情報学部 教授 （ロジスティクス環境会議 グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG 幹事））
13：35～14：00	【報 告】 グリーンロジスティクスチェックリスト調査結果の概要 ロジスティクス環境会議 事務局
14：00～14：50	【講演1（包装）】 スタッキングチェア「Daylight」に於けるエコロジー&エコノミーデザインへの挑戦 !! —2009 日本パッケージングコンテスト経済産業大臣賞 輸出用イスの40脚包装の開発について— 井関 徹 氏（愛知株式会社 総合企画室 デザイン開発G 次長）
14：50～15：00	【休 憩】
15：00～15：50	【講演2（輸送）】 JUKIにおけるグリーン物流・モーダルシフトへの取り組み —2005 年第6回鉄道貨物振興奨励賞・最優秀賞受賞、 2008 年第1回住田物流奨励賞受賞事例を中心として— 荻原 克郎 氏（JUKI株式会社 工業用マシン事業部 物流管理部 主査）
15：50～16：00	【休 憩】
16：00～16：50	【講演3（施設）】 物流施設における省エネ・環境配慮の実現 —第1回大阪サステナブル建築賞 特別賞 受賞事例— 楠本 銀次郎 氏（日本通運株式会社 営業企画部 専任部長）
16：50～17：00	【閉 会】 菅田 勝 氏 （株式会社ロジスティクス革新パートナーズ 代表取締役 （ロジスティクス環境会議 グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG 幹事））

以 上

CGLニュースの配信結果

Vol.1 2008年5月20日

- ・2006年度温室効果ガス排出量 確報値を公表（環境省）
- ・国土交通白書 2008 を公表（国土交通省）

Vol.2 2008年5月28日

- ・2007年の年平均大気中二酸化炭素濃度が過去最高に（気象庁）
- ・「脱温暖化 2050 プロジェクト」 ～低炭素社会に向けた 12 の方策～を公表（環境省）

Vol.3 2008年6月4日

- ・平成 20 年度グリーン物流パートナーシップ推進事業が決定（グリーン物流 P 会議）
- ・エネルギー白書 2008 を公表（経済産業省 資源エネルギー庁）

Vol.4 2008年6月11日

- ・平成 19 年度家電リサイクル実績を公表（経済産業省、環境省）
- ・第 2 期成果発表会開催報告

Vol.5 2008年6月30日

- ・弾力的な鉄道貨物輸送システムのあり方に関する調査報告書について（国土交通省）
- ・東京都環境確保条例の改正（東京都）
- ・平成 20 年版環境・循環型社会白書を公表（環境省）

Vol.6 2008年7月4日

- ・グリーン物流パートナーシップ ソフト支援事業 2次募集のお知らせ（グリーン物流 P 会議）
- ・環境行動計画 2008 を発表（国土交通省）
- ・「平成 20 年度 容器包装 3 R 推進環境大臣賞」の募集について（環境省）

Vol.7 2008年8月4日

- ・グリーン物流パートナーシップ ソフト支援事業 2次募集のお知らせ(グリーン物流 P 会議)
- ・グリーン物流パートナーシップ 普及事業 追加募集のお知らせ(グリーン物流 P 会議)
- ・「低炭素社会づくり行動計画」が閣議決定
- ・第 15 回エコレールマークの認定について（国土交通省）
- ・クリーンディーゼル普及推進方策の公表について(経済産業省、国土交通省、環境省)

Vol.8 2008年8月15日

- ・グリーンロジスティクスチェックリスト調査について
- ・平成 20 年度グリーン物流パートナーシップ優良事業の募集開始（国土交通省）
- ・平成 20 年度エコシップ・モーダルシフト事業優良事業者の募集について（国土交通省）
- ・バイオ燃料地域利用モデル実証事業の事業実施地区決定について（農林水産省）

Vol.9 2008年8月21日

- ・平成 20 年度グリーン物流パートナーシップ優良事業の募集について（経済産業省）
- ・平成 21 年版 環境・循環型社会白書表紙絵コンテストの実施について（環境省）

Vol.10 2008年9月1日

- ・平成 19 年度オゾン層等の監視結果に関する年次報告書について（環境省）
- ・「食品ロスの削減に向けた検討会」について（農林水産省）

Vol.11 2008年9月24日

- ・グリーン物流パートナーシップ推進事業決定（2次募集分）（グリーン物流 P 会議）
- ・地球温暖化学習教材「地球温暖化 今、わたしたちにできること」について（環境省）
- ・「食品ロスの削減に向けた検討会」について（農林水産省）

- ・物流と環境をテーマとしたイベント「第16回渋谷コロキウム」のご案内（武蔵工業大学）

Vol.12 2008年10月1日

- ・3R推進月間がスタート（環境省）
- ・「海の10モードプロジェクト」実船計測の実施について（国土交通省）
- ・ロジスティクス環境会議関連
 - 省エネ法実態調査 集計結果（速報版）の公表
 - グリーン物流研究会 活動報告
 - 包装の適性化推進委員会 活動報告
 - グリーンロジスティクスチェックリスト調査

Vol.13 2008年10月17日

- ・グリーン物流パートナーシップ 推進事業（普及事業）2次募集を開始（グリーン物流P会議）
- ・営業倉庫、トラックターミナル等の省エネ設備導入支援の2次募集のお知らせ（国土交通省）
- ・ロジスティクス環境会議関連
 - グリーン物流推進のための取引条件検討委員会 活動報告

Vol.14 2008年11月10日

- ・グリーン物流パートナーシップ 推進事業（普及事業）2次募集（グリーン物流P会議）
- ・環境配慮型3PL手引きの作成について（国土交通省）
- ・バイオ燃料の持続可能性に関する基準・指標のあり方について（農林水産省）
- ・ロジスティクス環境会議関連
 - グリーン物流研究会 活動報告

Vol.15 2008年11月21日

- ・第7回グリーン物流パートナーシップ会議のご案内（グリーン物流P会議）
- ・2007年度温室効果ガス排出量（速報値）の公表について（環境省）
- ・「環境を『力』にするビジネスベストプラクティス集」の発表（経済産業省）
- ・カーボンフットプリント・統一マークの決定について（経済産業省）
- ・ロジスティクス環境会議関連
 - 包装の適性化推進委員会 活動報告
 - グリーン物流推進のための取引条件検討委員会 活動報告

Vol.16 2008年11月28日

- ・第7回グリーン物流パートナーシップ会議 参加受付開始（グリーン物流P会議）
- ・第16回「エコレールマーク」の認定について（国土交通省）
- ・大気中の主要温室効果ガス濃度は過去最高値（気象庁）
- ・第5回エコプロダクツ大賞の結果について（エコプロダクツ大賞推進協議会）
- ・ロジスティクス環境会議関連
 - CGLジャーナルⅢ 第1号発刊
 - 第2回企画運営委員会開催報告

Vol.17 2008年12月15日

- ・第7回グリーン物流パートナーシップ会議 参加受付中（グリーン物流P会議）
- ・平成20年度グリーン物流パートナーシップ 推進事業を追加決定（グリーン物流P会議）
- ・産業廃棄物処理業者の優良性評価制度について（財団法人産業廃棄物処理事業振興財団）

Vol.18 2008年12月22日

- ・第7回グリーン物流パートナーシップ会議 開催報告（グリーン物流P会議）

- ・平成 20 年度エコシップマークの認定について（国土交通省）
- ・平成 18 年度の産業廃棄物の排出及び処理状況等について（環境省）
- ・ロジスティクス環境会議関連
 - 第 6, 7 回グリーン物流研究会開催報告

Vol.19 2009 年 1 月 6 日

- ・グリーンロジスティクスチェックリスト調査 結果報告会のご案内
- ・「環境にやさしい企業行動調査」の結果について（環境省）

Vol.20 2009 年 1 月 27 日

- ・「鉄道へのモーダルシフト」促進のための要望書を提出
- ・「省エネ法対応 荷主の省エネ推進の手引き」について（財団法人省エネルギーセンター）
- ・グリーンロジスティクスチェックリスト調査 結果報告会のご案内

Vol.21 2009 年 2 月 25 日

- ・グリーンロジスティクスチェックリスト調査 結果報告会 開催報告
- ・第 17 回「エコレールマーク」の認定について（国土交通省）
- ・ロジスティクス環境会議関連
 - 第 8 回グリーン物流研究会
 - 第 4 回包装の適性化推進委員会
 - 第 4 回グリーン物流推進のための取引条件検討委員会

Vol.22 2009 年 3 月 2 日

- ・グリーン物流パートナーシップ推進事業（普及事業）の募集予告について（グリーン物流 P 会議）
- ・営業倉庫等の省エネ設備・技術導入計画認定申請について（国土交通省）
- ・ロジスティクス環境会議関連
 - 第 3 回企画運営委員会

Vol.23 2009 年 3 月 16 日

- ・第 3 期ロジスティクス環境会議 第 2 回本会議開催報告
- ・「3R まなびあいぶっく」の発行について（環境省）

Vol.24 2009 年 3 月 19 日

- ・平成 21 年度「グリーン物流パートナーシップ推進事業（普及事業）」
3 月 31 日より申請受付開始（グリーン物流 P 会議）
- ・平成 20 年度「食品リサイクル推進環境大臣賞」の決定（環境省）
- ・「食品残さのリサイクルから地域循環圏を考えるシンポジウム」
（環境省 中部地方環境事務所）

Vol.25 2009 年 3 月 25 日

- ・平成 20 年度グリーン物流パートナーシップ推進事業が決定（グリーン物流 P 会議）
- ・エネルギー白書 2008 を公表（経済産業省 資源エネルギー庁）
- ・CGL ジャーナルⅢ 第 2 号発刊
- ・「サプライチェーン省資源化モデル大賞」の決定、及びサプライチェーン省資源化連携促進事業事例集の公表について（経済産業省）
- ・省エネ化と「省エネ産業」の展開に関する研究会の報告書の公表について（経済産業省）

Vol.26 2009 年 4 月 1 日

- ・低公害車等の導入等に係る補助制度のご案内（国土交通省）

- ・ 3 R活動先進事例集の公表（3 R活動推進フォーラム）

Vol.27 2009年4月9日

- ・ 「新たな温室効果ガス削減環境事業モデル」の新規募集について（国土交通省）
- ・ 公開制研究会／JILS 会員参加無料！ グリーンロジスティクスのすすめ（J I L S）

Vol.28 2009年4月15日

- ・ 温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度による平成19（2007）年度温室効果ガス排出量の集計結果の公表について（環境省、経済産業省）
- ・ 「改正省エネ法（工場・事業場）に関する企業向け説明会」について（経済産業省）
- ・ 「バイオ燃料持続可能性研究会」報告書について（経済産業省）

Vol.29 2009年4月28日

- ・ 平成 21 年度自動車環境配慮推進事業の募集について（環境省）
- ・ 「オゾン層観測報告：2008」を公表（気象庁）

Vol.30 2009年5月1日

- ・ バイオ燃料地域利用モデル実証事業の事業実施地区決定について（農林水産省）
- ・ 2007 年度（平成 19 年度）の温室効果ガス排出量（確定値）について（環境省）
- ・ 平成 2 1 年度 物流連携効率化推進事業（新規）の公募受付中（国土交通省）

Vol.31 2009年5月25日

- ・ 平成 21 年度エコドライブコンテストについて
- ・ 第 1 8 回「エコルールマーク」の認定について（国土交通省）
- ・ 使用済携帯電話回収促進キャンペーンについて（総務省、経済産業省、環境省）

Vol.32 2009年6月22日

- ・ 平成 21 年度グリーン物流パートナーシップ普及事業 推進決定について（グリーン物流 P 会議）
- ・ グリーン物流パートナーシップ推進事業 事例集の公表（グリーン物流 P 会議）
- ・ 平成 21 年度「物流連携効率化推進事業」の認定について（国土交通省）
- ・ 「“はこんでもうける” 物流省エネ事例集 in 北海道」について（北海道経済産業局）

Vol.33 2009年7月9日

- ・ 営業倉庫、トラックターミナル等における省エネ設備・技術導入計画の二次募集について（国土交通省）
- ・ 「公開制研究会 循環型社会構築を考える」のご案内（C G L）

Vol.34 2009年7月24日

- ・ 総合物流施策大綱（2009-2013）及び総合物流施策推進プログラムについて（経済産業省、国土交通省）
- ・ 平成 21 年度省エネ大賞の公募開始 今年度から募集対象が拡大（経済産業省）
- ・ 「産廃情報ネット」新サービスがスタート（財団法人産業廃棄物処理事業振興財団）

Vol.35 2009年8月3日

- ・ 平成 21 年度「グリーン物流パートナーシップ推進事業（普及事業）」
2 次募集の申請受付開始（グリーン物流 P 会議）
- ・ 平成 2 1 年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰について（環境省）
- ・ 平成 2 1 年度省エネルギー普及のための人材研修 参加者募集中！（資源エネルギー庁）
- ・ 「環境問題に関する世論調査」結果を発表（内閣府）

Vol.36 2009年8月27日

- ・ グリーン物流パートナーシップ 優良事業の募集について（国土交通省）

- ・グリーン物流パートナーシップ 優良事業の募集について（経済産業省）
- ・カーボンフットプリント制度試行事業用 CO2 換算量共通原単位データベース（暫定版）の公開について（CFP 制度試行事業事務局（社団法人産業環境管理協会））
- ・ペットボトルリユース実証実験の取りまとめについて（環境省）

Vol.37 2009年9月29日

- ・グリーンロジスティクスチェックリスト 2009 年度調査へのご協力をお願い
- ・一般廃棄物の排出及び処理状況等（平成 19 年度速報）について（環境省）
- ・プラスチック製容器包装の再商品化に伴う環境負荷の削減効果について（環境省）

Vol.38 2009年10月30日

- ・平成 21 年度グリーン物流パートナーシップ普及事業（2 次募集）の決定について（グリーン物流 P 会議）
- ・平成 2 1 年度 3 R 推進功労者等表彰について（3 R 推進協議会）
- ・グリーンロジスティクスチェックリスト 2009 年度調査へのご協力をお願い
- ・省エネ法実態調査結果の公表について

Vol.39 2009年11月12日

- ・2008年度温室効果ガス排出量（速報値）の公表について（環境省）
- ・第 4 回日中省エネルギー・環境総合フォーラムにおける日中間の協力合意事項（経済産業省）
- ・ジメチルエーテル（DME）燃料を用いたトラックの実証運行試験の実施について（国土交通省）
- ・グリーンロジスティクスチェックリスト 2009年度調査へのご協力をお願い

Vol.40 2009年11月16日

- ・第 8 回グリーン物流パートナーシップのご案内（グリーン物流 P 会議）

Vol.41 2009年12月18日

- ・第 8 回グリーン物流パートナーシップ会議 開催報告（グリーン物流 P 会議）
- ・温室効果ガス「排出抑制等指針」Web サイトについて（環境省）

Vol.42 2010年1月12日

- ・地球温暖化・エネルギー関係での経済産業省と国土交通省の連携強化に向けた中間とりまとめについて（経済産業省、国土交通省）
- ・「たんすケータイ あつめタイ\(^o^)/」における使用済み携帯電話の回収状況等の中間発表について（経済産業省）

Vol.43 2010年2月8日

- ・【3月1日開催】CGLメンバー企業は無料 グリーンロジスティクス講演会のご案内
- ・環境教育冊子「グリーン物流ってなんだろう？」発刊のお知らせ
- ・「交通基本法」の制定に向けた意見の募集について（国土交通省）

Vol.44 2010年2月23日

- ・【3月1日開催】CGLメンバー企業は無料 グリーンロジスティクス講演会のご案内
- ・第20回エコレールマークの認定について（国土交通省）
- ・「平成21年度容器包装 3 R 推進環境大臣賞」について（環境省）
- ・「平成 21 年度食品リサイクル推進環境大臣賞」について（環境省）

以 上

第3期ロジスティクス環境会議 活動の総括について（案）

I. 第3期活動の総括

1. 概要（第1回本会議承認事項）

1) 目的

持続可能社会を実現するロジスティクスの構築
～個人が変わる、企業が変わる、物流が変わる～

2) 方針

持続可能社会を実現するロジスティクスの構築に向けて、産・官・学、発荷主企業・着荷主企業・物流事業者間の連携のもと、第1、2期の活動成果を活用しつつ、ロジスティクス分野における環境負荷低減活動を推進する。

3) 目標

ロジスティクス分野における環境負荷低減を経営の重要課題として認識し、委員会ならびに研究会等の活動を通じて、持続可能な社会の実現を目指す。

2. 第3期活動の実績

1) 低炭素社会及び循環型社会の実現に向けた活動の推進

（ロジスティクス環境宣言第1項実現に向けた取り組み）

（主な実績）

- ①グリーン物流推進のための輸送包装適正化の手引き ー環境パフォーマンス算定の考え方ー
- ②取引条件の見直しによるグリーン物流推進の手引き ー時間指定を中心としてー
- ③グリーン物流研究会による改善施策の研究

2) 「取り組む企業を増やす」ための活動の展開（ロジスティクス環境宣言第2項実現に向けた取り組み）

各社における環境取組状況やエネルギー使用量に係わるデータ等の情報提供の実施

（主な実績）

- ①グリーンロジスティクスチェックリスト調査及び簡易診断集計分析、報告
- ②省エネ法実態調査報告

3) 「情報発信」の実践（ロジスティクス環境宣言第3項実現に向けた取り組み）

行政及び関係企業に対する意見・要望の策定・提出と行政の動向

（主な実績と予定）

- ①モーダルシフト推進に対する意見・要望の提出（2009年1月）
→国土交通省鉄道局委託調査「貨物鉄道のインフラ整備に係るグランドデザインに関する検討会 有識者との意見交換会」の有識者メンバーとして環境会議メンバーが参画（2009年7月～2010年3月）

<今後の予定>

- ・モーダルシフト等推進官民検討会の設置*¹（2010年3月～（予定））

- ②省エネ法に対する意見・要望の提出（第2期（2008年3月））

<今後の予定>

- ・経済産業省、国土交通省両省の関係部局による連絡会の設置、データに係る分析等*²

* 1、2ともに、2009年12月25日に公表された「地球温暖化・エネルギー関係での経済産業省と国土交通省の連携強化に向けた中間とりまとめ」における物流分野での実施事項として掲げられている。

4) 連携を意識した検討・活動の推進

第1、2期に引き続き、研究会、委員会ともに発荷主企業、着荷主企業、物流事業者間の連携を意識した検討、並びに活動を進めた。

組織	特徴
グリーン物流推進のための取引条件検討委員会	・発荷主、着荷主、物流事業者メンバーによる検討、及び発荷主物流部門が自社営業部門、さらには得意先（着荷主）との対話・調整のための手引き等を作成
包装の適正化推進委員会	・広い意味では包装材のユーザーであるが、立場が異なるメーカー、物流子会社と物流事業者双方による検討 ・包装材メーカーとの情報交流、現場見学会の開催
グリーン物流研究会	・公開制研究会の実施 ・講師とメンバーとの人的交流の促進
グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG	・簡易診断結果返却時に他業種結果等の情報提供 ・グリーンロジスティクス講演会の開催 ・他委員会、研究会メンバーも含めた交流会の実施

5) 消費者を意識した活動

物流・ロジスティクスに携わる企業メンバー等が、将来の物流・ロジスティクスを担う児童を対象に、①物流・ロジスティクスへの理解、②環境に優しい行動の実践を促すことをねらいとした環境教育冊子「グリーン物流ってなんだろう？」を作成した。

3. 第3期活動からの課題

1) 普及活動のさらなる推進

第3期においても、多くの成果物を作成してきたが、それらの普及は多くの場合環境会議メンバー内にとどまり、広く産業界に発信し、活用を促進するための十分な活動までは展開できなかった。

そこで、第1、2期の成果物とともに、第3期の成果物についても普及活動を展開し、環境負荷低減活動に取り組む企業を増やす活動をより一層進める必要がある。

2) 各委員会の今後の課題

各委員会ともに、いくつかの課題を残している。今後、JILSが設置する検討組織におけるテーマの設定の際に、それらを考慮し、研究活動にあたる。

4. 総括

ロジスティクス分野における環境対応を積極的に進め、産業界に広く貢献したいと考える87社のメンバー企業等の連携による検討、情報交流、さらには人的ネットワークの構築を図りながら、持続可能社会を実現するロジスティクスの構築に向けて、「ロジスティクス環境宣言」の実践に必要なツールの整備等を展開した。

今後、モーダルシフトや共同輸配送、静脈物流の構築等、総合物流施策大綱等で掲げられ、より一層の推進が求められる取り組み施策を中心に、調査研究や情報提供活動を展開したい。

II. ロジスティクス環境会議の3期7年にわたる活動の総括

ロジスティクス環境会議は、3期7年にわたる活動を通じて、産業界において環境負荷低減活動を進める上で有用となるツールの開発、取り組む企業を増やすための普及・啓発、異業種メンバーによる人的ネットワークの構築、行政に対する提言、「ロジスティクス環境宣言」の採択など、ロジスティクス分野における環境負荷低減に向けた活動を積極的に展開した（別紙3参照）。

今後、3期7年にわたるロジスティクス環境会議の成果を、JILS会員を始めとする産業界に向けて広く継続的に情報発信するとともに、環境負荷低減に資するものの各企業において取り組みが遅れている施策等を中心に、引き続き調査研究や行政への提言活動を通じて、環境負荷低減活動をより一層推進したい。

以 上

第3期ロジスティクス環境会議 活動の総括について

2010年3月10日

ロジスティクス環境会議企画運営委員会
東京都市大学 増井 忠幸

1

【構成】

I. 第3期活動の総括

1. 目的・方針・目標
2. 第3期活動の実績
3. 第3期活動からの課題
4. 総括

II. ロジスティクス環境会議の 3期7年にわたる活動の総括

2

I. 第3期活動の総括

1. 目的・方針・目標(第1回本会議承認事項)

1) 目的

持続可能社会を実現するロジスティクスの構築
～個人が変わる、企業が変わる、物流が変わる～

2) 方針

持続可能社会を実現するロジスティクスの構築に向けて、
産・官・学、発荷主企業・着荷主企業・物流事業者間の連携のもと、
第1、2期の活動成果を活用しつつ、
ロジスティクス分野における環境負荷低減活動を推進する。

3) 目標

ロジスティクス分野における環境負荷低減を経営の重要課題として認識し、委員会ならびに研究会等の活動を通じて、持続可能な社会の実現を目指す。

3

2. 第3期活動の実績(1/4)

1) 低炭素社会及び循環型社会の実現に向けた活動の推進

☞ロジスティクス環境宣言第1項実現に向けた取り組み

◆主な実績

- ①低炭素社会及び循環型社会の実現に向けた活動の推進
- ②取引条件の見直しによるグリーン物流推進の手引き
—時間指定の見直しを中心として—
- ③グリーン物流研究会による改善施策の研究

2) 「取り組む企業を増やす」ための活動の展開

☞ロジスティクス環境宣言第2項実現に向けた取り組み

各社における環境取組状況やエネルギー使用量に係わるデータ等の
情報提供の実施

◆主な実績

- ①グリーンロジスティクスチェックリスト調査及び簡易診断集計分析、報告
- ②省エネ法実態調査報告

4

2. 第3期活動の実績(2/4)

3)「情報発信」の実践

☞ロジスティクス環境宣言第3項実現に向けた取り組み

行政及び関係企業に対する意見・要望の策定・提出とその後の行政動向

◆主な実績と今後の予定

- ①モーダルシフト推進に対する意見・要望の提出(2009年1月)
 ☞国土交通省鉄道局委託調査「貨物鉄道のインフラ整備に係るグランドデザインに関する検討会」
 有識者との意見交換会に環境会議メンバーが参画(2009年7月～2010年3月)
 <今後の予定>
 モーダルシフト等推進官民検討会の設置*1(2010年3月予定)
- ②省エネ法に対する意見・要望の提出(2008年3月;第2期)
 <今後の予定>
 経済産業省、国土交通省両省の関係部局による連絡会の設置、データに係る分析等*2

*1、2)ともに、2009年12月25日に公表された「地球温暖化・エネルギー関係での経済産業省と国土交通省の連携強化に向けた中間とりまとめ」における物流分野での実施事項として掲げられている。

5

2. 第3期活動の実績(3/4)

4)連携を意識した検討・活動の推進

第1、2期に引き続き、研究会、委員会ともに発荷主企業、着荷主企業、物流事業者間の連携を意識した検討、並びに活動を進めた。

組織名称	検討・活動の特徴
グリーン物流推進のための取引条件検討委員会	・発荷主、着荷主、物流事業者メンバーによる検討、及び発荷主物流部門が自社営業部門、さらには得意先(着荷主)との対話・調整のための手引き等を作成
包装の適正化推進委員会	・広い意味では包装材のユーザーであるが、立場が異なるメーカー、物流子会社と物流事業者双方による検討 ・包装材メーカーとの情報交流、現場見学会の開催
グリーン物流研究会	・公開制研究会の実施 ・講師とメンバーとの人的交流の促進
グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG	・簡易診断結果返却時に他業種結果等の情報提供 ・グリーンロジスティクス講演会の開催 ・他委員会、研究会メンバーも含めた交流会の実施

6

2. 第3期活動の実績(4/4)

5)消費者を意識した活動

物流・ロジスティクスに携わる企業メンバー等が、将来の物流・ロジスティクスを担う児童を対象に、

- ①物流・ロジスティクスへの理解
- ②環境に優しい行動の実践を促す

ことをねらいとした環境教育冊子「グリーン物流ってなんだろう？」を作成した。

7

3. 第3期活動からの課題

1)普及活動のさらなる推進

第3期においても、多くの成果物を作成してきたが、それらの普及は多くの場合環境会議メンバー内にとどまり、広く産業界に発信し、活用を促進するための十分な活動までは展開できなかった。

そこで、第1、2期の成果物とともに、第3期の成果物についても普及活動を展開し、環境負荷低減活動に取り組む企業を増やす活動をより一層進める必要がある。

2)各委員会の今後の課題

各委員会ともに、いくつかの課題を残している。今後、JILSが設置する検討組織におけるテーマの設定の際に、それらを考慮し、研究活動にあたる。

8

4. 総括

ロジスティクス分野における環境対応を積極的に進め、産業界に広く貢献したいと考える87社のメンバー企業等の連携による検討、情報交流、さらには人的ネットワークの構築を図りながら、持続可能社会を実現するロジスティクスの構築に向けて、「ロジスティクス環境宣言」の実践に必要なツールの整備等を展開した。

今後、モーダルシフトや共同輸配送、静脈物流の構築等、総合物流施策大綱等で掲げられ、より一層の推進が求められる取り組み施策を中心に、調査研究や情報提供活動を展開したい。

9

Ⅱ. ロジスティクス環境会議の3期7年にわたる活動の総括

ロジスティクス環境会議は、3期7年にわたる活動を通じて、産業界において環境負荷低減活動を進める上で有用となるツールの開発、取り組む企業を増やすための普及・啓発、異業種メンバーによる人的ネットワークの構築、行政に対する提言、「ロジスティクス環境宣言」の採択など、ロジスティクス分野における環境負荷低減に向けた活動を積極的に展開した(別紙3参照)。

今後、3期7年にわたるロジスティクス環境会議の成果を、JILS会員を始めとする産業界に向けて広く継続的に情報発信するとともに、環境負荷低減に資するものの各企業において取り組みが遅れている施策等を中心に、引き続き調査研究や行政への提言活動などを通じて、環境負荷低減活動をより一層推進したい。

第1期:2003年11月～2006年3月

環境負荷低減活動に「取り組む企業」を増やすための基盤整備活動の展開

<主な実績>

- ・二酸化炭素排出量算定ガイド
- ・モーダルシフト推進チェックリスト/資料集
- ・省資源ロジスティクス事例集
- ・取引条件の見直しによる物流の環境負荷低減効果に関する調査報告書
- ・リバースロジスティクス調査報告書
- ・企業の環境報告書における物流に関する記載内容実態調査 他
- ・省エネ法判断基準への意見・要望書提出
- ・「ロジスティクス環境宣言」の採択
- ・グリーン物流P会議との連携

第2期:2006年8月～2008年3月

物流分野におけるCO₂削減をテーマとし、ロジスティクス環境宣言実現に向けた取り組みを展開

<主な実績>

- ・グリーンロジスティクスガイド
- ・鉄道へのモーダルシフト実施/拡大のためにクリアしなければならない課題と対応事例
- ・エコドライブ推進ガイド
- ・取引条件を考慮した環境負荷低減施策に関する提案
- ・グリーンロジスティクスチェックリスト
- ・改正省エネ法への意見・要望書提出
- ・鉄道へのモーダルシフト促進のための要望書取りまとめ
- ・グリーン物流P会議との連携

第3期:2008年5月～2010年3月

持続可能社会構築に向けて、ロジスティクス環境宣言実践に向けた積極的な取り組みを展開

<主な実績>

- ①**低炭素、循環型社会実現に向けた活動**
 - ・グリーン物流推進のための輸送包装適正化の手引き
 - ・取引条件の見直しによるグリーン物流推進の手引き
 - ・改善施策の研究
 - ・グリーン物流P会議との連携
- ②**取り組む企業を増やすための活動**
 - ・グリーンロジスティクスチェックリスト調査、省エネ法実態調査を通じた啓発活動
- ③**課題等に対する情報発信**
 - ・モーダルシフト促進のための意見要望提出、意見交換会への参画
- ④**一般消費者を意識した活動**
 - ・児童向け環境教育冊子「グリーン物流ってなんだろう？」

【外部環境】

<京都議定書の発効>

<行政施策等の推進>

- ・総合物流施策大綱(2005-2009)の閣議決定
- ・改正省エネ法の施行
- ・グリーン物流P会議の発足
- ・物流総合効率化法の施行

【企業メンバーの意向】

<環境対応への誤解>

- ・コストアップ要因との誤解
- ・物流事業者で取り組むべき事項との誤解

<取り組むためのツール等の不足>

- ・CO₂等の環境パフォーマンス算定方法
- ・環境負荷低減施策に関する情報不足

【外部環境】

<21世紀環境立国戦略>

- ・持続可能な社会に向けた取組

<京都議定書国際公約達成に向けて>

- ・京都議定書目標達成計画の改定

【企業メンバーの意向】

<省エネ法対応等>

- ・エネルギー使用量算定方法
- ・省エネ計画の策定
- ・削減施策推進に向けた異業種メンバーによる検討

【外部環境】

<京都議定書等の動向>

- ・京都議定書第一約束期間開始
- ・2020年までに1990年比25%削減等の鳩山イニシアティブ

<行政施策等の推進>

- ・総合物流施策大綱(2009-2013)の閣議決定
- ・カーボンフットプリント等CO₂の見える化の展開
- ・買主への環境対策(東京都)

【企業メンバーの意向】

<省エネ法への対応>

- ・リーマンショックの影響を受け、物量の減少によるエネルギー使用原単位悪化
- ・省エネ計画の策定

<情報交流のニーズ>

- ・地方自治体含めた行政施策等のニーズ
- ・異業種メンバーによる検討

2010 年度以降の活動について（案）

1. はじめに

ロジスティクス環境会議は、2003 年 11 月設立以降、3 期 7 年にわたり、各委員会、研究会の活動を通じて、課題解決のためのツールの開発と普及、人的ネットワークの構築、省エネ法や鉄道へのモーダルシフト推進のための要望書提出など行政に対する提言活動、「ロジスティクス環境宣言」の採択など、ロジスティクス分野における環境負荷低減に向けた活動を進め、大きな実績をあげてきた。

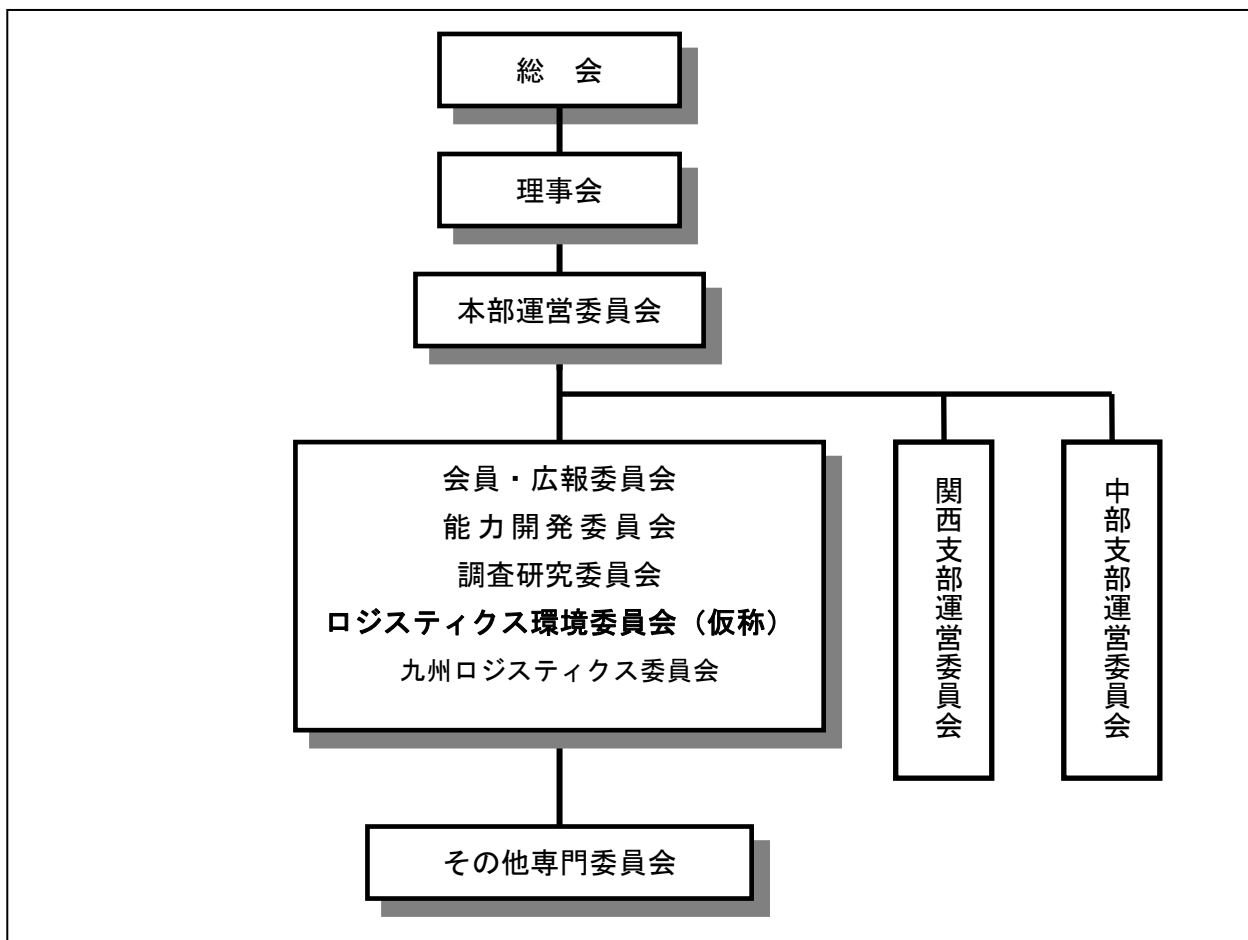
この環境会議は、企画運営委員をはじめとした、各委員会、研究会の委員長、副委員長/幹事、副幹事、そして登録メンバーの方々の熱心な活動により遂行してきた。2010 年度以降は 3 期 7 年の活動で明らかになった課題や現政権が掲げる施策に関わるテーマについて、これまでの委員会、研究会などの具体的な活動の枠組みを維持しつつ、さらに活動対象の拡大や活動形態の多様化によって環境負荷低減により一層積極的に取り組むために、環境会議を発展的に解消し J I L S の経常活動の一環に位置づける組織形態にあらためることとする。

2. 組織体制

1) ロジスティクス環境委員会（仮称）（常設委員会）

ロジスティクス分野における環境負荷低減活動を経常的に企画運営するために、J I L S の常設委員会としてロジスティクス環境委員会（仮称）を新規に設置する。

図表 1 社団法人日本ロジスティクスシステム協会 組織図（案）



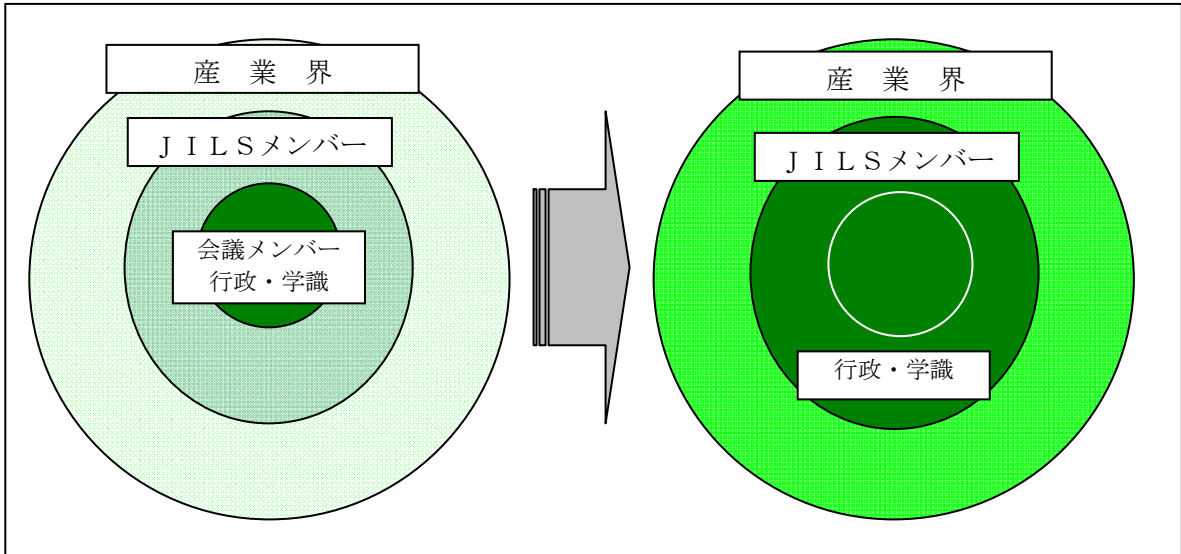
- 2) ロジスティクス環境委員会（仮称）の役割
 - ①ロジスティクス環境活動に係る諸施策への提言の検討
 - ②ロジスティクス環境活動の企画・運営に関する事項の検討

3. 環境関連活動

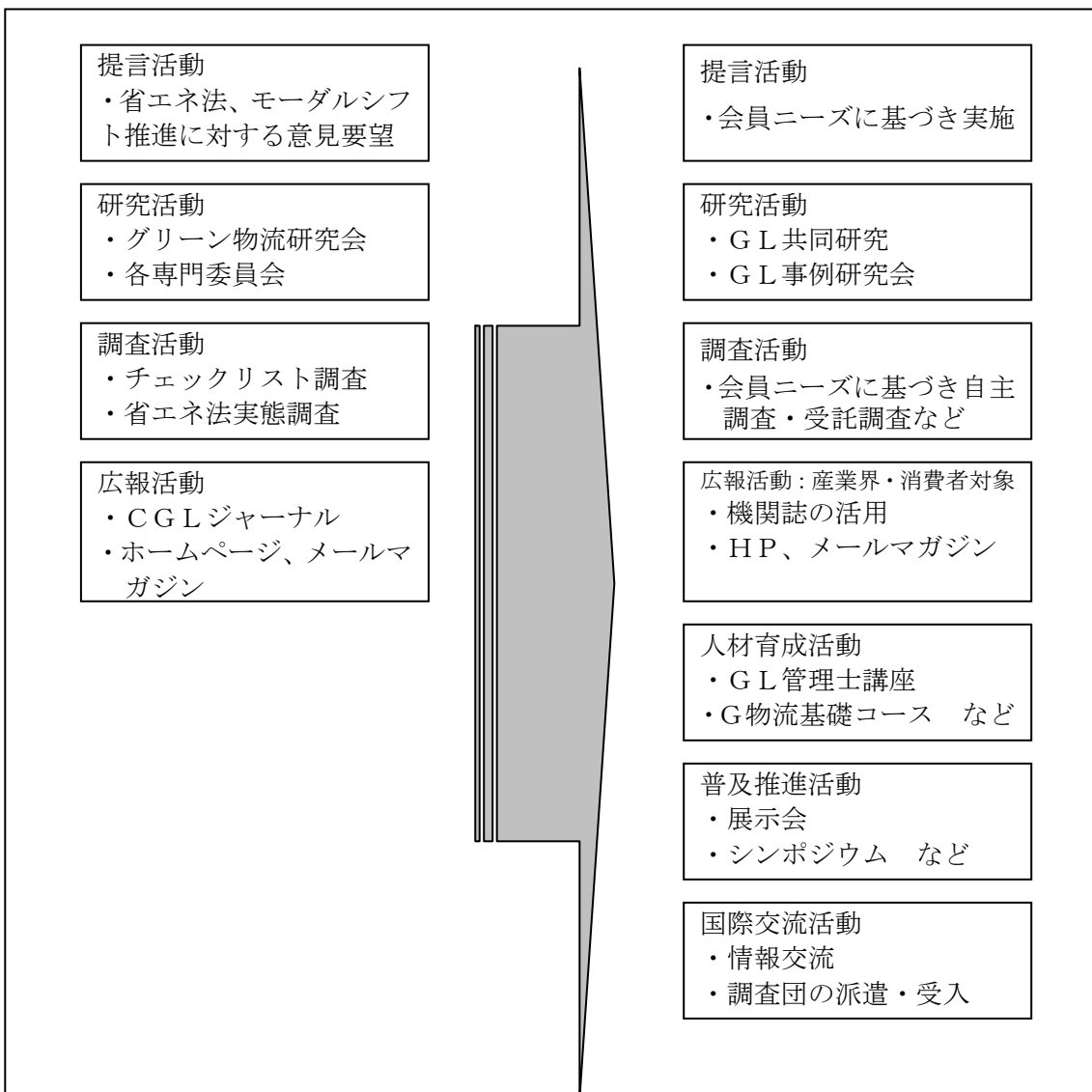
- 1) 提言活動
 - ・行政、産業界に対し、ロジスティクスにおける環境に関する諸施策への提言を行う。
- 2) 研究活動
 - ・環境負荷低減に関する、課題解決方策の研究や事例交換・情報交流、人的ネットワークの構築を目的とした、共同研究、事例研究会などに係る検討を行う。
 - (1) グリーンロジスティクス共同研究
 - (2) グリーンロジスティクス事例研究会 など
- 3) 調査活動
 - ・調査研究委員会と連携して、環境に関する行政からの受託調査に係る事項や自主調査の研究テーマの検討を行う。
- 4) 人材育成活動
 - ・能力開発委員会と連携して、ロジスティクスにおける環境の課題に取り組む人材育成に関するプログラムを開発提供する。
 - (1) グリーンロジスティクス管理士資格認定講座（資格称号：グリーンロジスティクス管理士）
 - (2) グリーン物流基礎コース など
- 5) 国際交流活動
 - ・海外関係機関との情報交流や調査団派遣や受入に係る検討を行う。
- 6) 普及促進活動
 - ・産業界への普及促進を目的に、ロジスティクス分野における環境をテーマとした展示会やシンポジウムを行う。
- 7) 広報活動
 - ・会員・広報委員会と連携して産業界や一般消費者に向けた広報活動について検討する。
 - (1) J I L S機関誌「ロジスティクスシステム」への掲載
 - (2) HP、メールマガジンの活用 など

以 上

図表2 活動対象領域の拡大



図表3 活動形態の多様化



以上